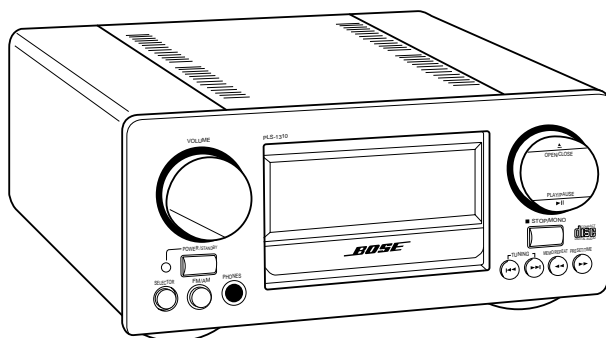
BOSE®

OWNER'S MANUAL

## CDアンプリファイヤー+チューナー

# PLS-1310

この度はPLS-1310をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、必要なときにご覧になれるよう大切に保管しておくことをおすすめします。

# PLS-1310取扱説明書

※説明の便宜上、イラストは原型と異なる場合があります。

## 目　次

# 安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

## 絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

**警告**　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

**注意**　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

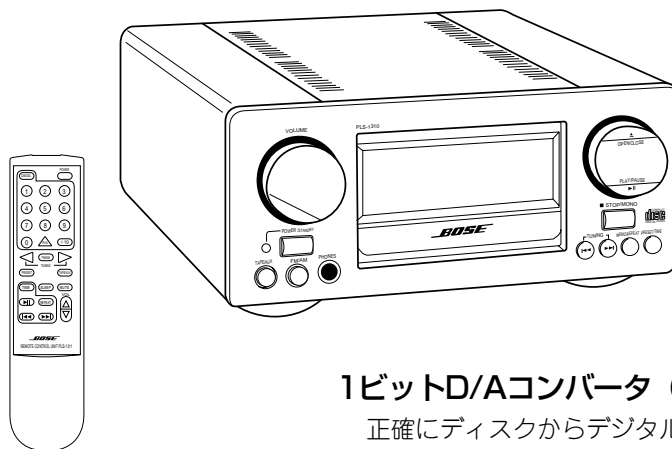
●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は行為を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

| | | |
|---|---|---|
|  警告 |  電源プラグをコンセントから抜け | ●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。<br>●万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。<br>●万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 |
| |  | ●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 |
| |  水場での使用禁止 | ●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。 |
| |  | ●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。 |
| | ⚠ | **ボタン電池を使用する機器のみ**<br>●この機器に使用しているボタン電池を取り外した場合は､小さなお子様がボタン電池をあやまって飲むことがないようにしてください。電池は幼児の手の届かないところへおいてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。 |
| |  使用禁止 | ●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。 |
| |  | **充電する機器のみ**<br>●充電するときは、付属のACアダプターをお使いください。指定以外の充電器を使用すると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。 |
| |  | ●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。<br>●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。<br>●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。 |
| |  | ●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 |

| 警告 | | |
|---|---|---|
| | | 通風孔のある機器のみ<br>●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。<br>この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。 |
| | | ●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。 |
| | | ●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。<br>●この機器の通風孔、カセットテープの挿入口、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。<br>●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。 |
| | 分解禁止 | ●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。<br>●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。 |
| | | ●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加工したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。<br>ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ<br>●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（容量）を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。 |

| 注意 | | |
|---|---|---|
| | | ●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。<br>●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。<br>●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。<br>●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に湿度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。<br>●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。 |
| | | ●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。<br>電池を使用する機器のみ<br>●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス ＋ と － の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。 |
| | | ●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。<br>●お手入れ際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。 |
| | | ●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。<br>●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。<br>※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。 |
| | | ●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。<br>●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。 |
| | | ●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 |
| | | ●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。 |
| | | ●お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。 |
| | | ●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。 |

# 特　　長

## AMステレオ放送にも対応のCDアンプリファイヤー＋チューナー

コンパクトディスクプレーヤーとFM/AM チューナーを内蔵した全く新しい発想のCDアンプリファイヤー＋チューナーです。

## デジタル録音が可能な光デジタル出力端子を装備

MD（ミニディスク）へのCDの信号を録音するための光デジタル出力端子を装備しました。

## FM / AM それぞれ 9 局のプリセット また、放送局を自動的にメモリーする“オートストアメモリー”採用

普段よく聴く放送局をあらかじめメモリーに登録することができます。メモリーできる放送局の数は、FM/AM それぞれ 9 局づつです。また、受信可能な放送局を自動的に登録していく“オートストアメモリー”も装備しています。

## 小音量時でもバランスのとれた音を生みだす“PsychoAcoustically Processed”回路

人間の耳は音量が小さくなるにしたがって、低域と高域が聞こえにくくなる性質を持っています。このため、大きな音では自然に聞こえる再生音も、小音量になると中域だけが目立つもの足りない音になってしまいます。そんな人間の聴覚を研究し、どんな再生レベルでも聴感上もっとも自然な周波数バランスに聞こえるよう、常に自動的にコントロールします。

## Model 121、363用 アクティブ・イコライザー回路搭載

スピーカーのインピーダンス特性やダンピング特性などは、入力信号の大きさや周波数に応じて変化し、これが再生音の音質変化などの要因となっていました。そこでボーズでは長年にわたる心理音響学の研究により確立したアクティブ・イコライザー回路を搭載、スピーカーの再生能力を最大限まで引き出し、常にナチュラルなボーズ・サウンドの再生を可能にしています。（121、363、Ⅹの3ポジション）

## 1ビットD/Aコンバータ（MASH方式）

正確にディスクからデジタル信号を取り出し、アナログ信号へと変換するため、18ビット8倍オーバーサンプリングのデジタルフィルターと、原理的にゼロクロス歪みその他のデジタル歪みが発生しない1ビットのD/Aコンバーターを採用。直線性に優れたキメこまやかな再生を可能にしています。

## 忠実な音楽再生を実現する 2ステージ3ビーム・レーザーピックアップ

品位の良いデジタル信号を取り出すため、レーザーピックアップには3ビーム方式を用い、正確なトレースを実現すると共に、ピックアップのサーボには独自のデジタル・サーボ・コントロールシステムを搭載し、外部振動や電源等の影響を極力少なくすることで忠実な音楽再生を可能にしました。

## バーズアイ・メイプル調のサイドパネル

スピーカーの音圧などによる外部振動や駆動系の内部振動に対し、キャビネットの剛性や振動特性、電気特性を追求し、シャーシ部分には銅メッキを施し、フロントパネルには5mm厚のアルミパネルを採用しました。またサイドパネルは121、363と同じくバーズアイ・メイプル調に仕上げ、高級感を醸し出すと共にコンポーネント・システムとしての統一制を生みだしています。

## 伝送効率に優れた 金メッキ処理による入出力端子

音楽信号の入口、出口となる入出力端子は、伝送ロスを最小限にとどめるため金メッキ処理を施しました。

## 信号切り換えに 小信号用ガス入金接点リレー採用

CD信号切り換えには伝送ロスの少ない小信号用ガス入金接点リレーを採用しました。

## さらに便利な機能を発揮できる赤外線リモコン付属

電源のON／OFF、入力ソースの切り換え、音量調節、放送局の選局などはもちろん、CDのダイレクト選曲などの多彩な機能を発揮させることができます。

# ご使用になる前に　安全にご使用いただくためにこのページは必ずお読みください

## 設置上の注意

次のような場所には設置しないでください。性能の劣化、故障や感電事故の原因および火災の原因になります。

●直射日光の当たる場所。
●暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
●投光照明機などの発熱物の近くの場所。
●極端に寒い場所。
●湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
●屋外や直接水のかかるところ。
●潮風の直接当たるところ。
●風通しが悪く、ホコリの多い場所。
●振動や傾斜のある不安定な場所。
●石油化学製品（ビニール、ポリエステル、プラスッチックなど）やゴム製品で巻いたり、被せたり、下に敷いたり直接触れないようにしてください。
●通常の生活環境と大きく異なる場所。

## 100V交流（AC）電源で

●この製品は100V専用です。クーラーなどの200V電源には絶対接続しないでください。故障や火災の原因になり、危険です。また、直流（DC）電源ではご使用になれません。
●この製品は国内専用仕様です。海外や電源電圧の違うところでは、ご使用になれません。ご使用になった場合感電事故の原因および火災の原因になりますのでご注意ください。
●電源は、コンピューターや、コンピューターを搭載している機器などのノイズ源となるものに供給しているACコンセントと共有しないでください。ノイズ源となるものに供給しているACコンセントからできるかぎり離れたACコンセントから供給するようにしてください。

## 電源コードについて

●コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグをもって抜いてください。
●濡れた手でプラグの抜き差しを行なうと感電する危険がありますので、絶対おやめください。
●電源コードの上に重いものを置いたり、ケーブルに傷を付けたりしますとコードが断線したりショートして火災の原因となる場合がありますのでコードをつぶしたり傷つけたりしないようにご注意ください。
●長期間ご使用にならないときは、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。

## ケースを開けないで

●ケースを開けますと、故障や感電事故の原因になります。内部に触れることは絶対にしないでください。また、内部を改造した場合の性能の劣化については保証いたしません。

## 内部に異物を落とさない

●内部に燃えやすいものや、ヘアピン、硬貨などの金属片などが入った場合、また、誤って水などの液体がかかった場合は、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げいただいた販売店又は当社にご相談ください。そのままでご使用になりますと火災や故障、感電事故の原因になります。

## シンナーなどで拭かないで

●パネルやケースは、ときどき柔らかい布でからぶきしてください。シンナー、ベンジン、アルコール、化学薬品を使用すると表面が侵されたり文字が消えたり外装ムラになることがありますから絶対に使わないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

## セットを移動するとき

●セットを移動するときは、接続しているコードや電源コードの断線やショートを防ぐため他の機器との接続コードを取り外し、電源をコンセントから抜いてから動かしてください。

## 他の機器と接続するとき

●他の機器と接続するときは、各機器の電源がOFFになっていることを確認してください。また、セットのボリュームを絞ってから行なってください。

## 落雷に対する注意

●落雷などのおそれがあるときは、コンセントから電源プラグを抜き取ってください。

## 無理な力は加えない

●スイッチやツマミには、無理な力を加えないでください。

## 音のエチケット

●音量は時や場所に応じて適度な大きさに調整してください。特に、静かな夜間は小さな音でも通りやすいものです。

※オディスクや市販のソフトテープから録音や録画したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

## ◆ 結露について ◆

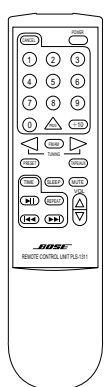
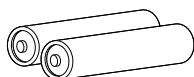
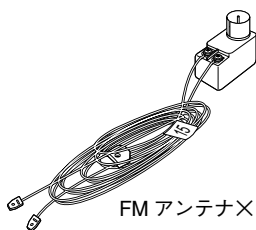
冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がつき、くもってしまう現象、これが結露現象です。CDプレーヤーも冷えきった状態のまま暖かい部屋に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、光学系のレンズ（ピックアップのレンズ部分）に露が生じ（結露）、レーザーによるコンパクトディスクからの信号読み取りができず、プレーヤーが動作しないことがあります。

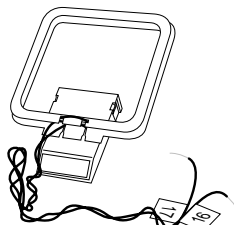
このような現象が生じた場合は、周囲の状況にもよりますが、電源を入れ1時間程放置すると結露が取り除かれプレーヤーは正常に動作するようになります。

## ◆ 本体のお手入れについて ◆

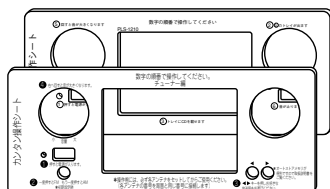
通常は、やわらかい布で乾拭くしてください。汚れがひどいときには、中性洗剤を水で薄めた液にやわらかい布を浸し、よく絞ってから汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコール、化学薬品を使用すると表面が侵されたり文字が消えたり外装ムラになることがありますから絶対に使わないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

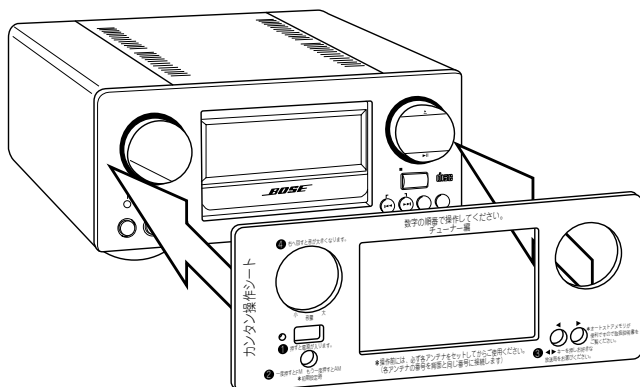
# 開梱時のご注意

### 付属品を確認してください

リモコン
PLS-1311×１個

FM アンテナ×1本

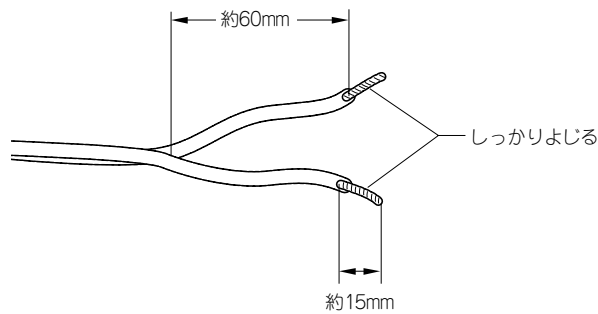
リモコン用電池 (単4型)×2本

AM ループアンテナ×1本

もし開梱時に損傷などが発見された場合や、内容物が不足しているときはそのままの状態を保ち、ただちにお買上になった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

※スピーカーコード、オーディオピンケーブルは付属しておりません。別途ご用意ください。

カンタン操作シート（CD 用）×1枚
カンタン操作シート（チューナー 用）×1枚

# カンタン操作シートの使い方

本取扱説明書にしたがって全ての結線を終えた後、図のように簡単操作シートをPLS-1310のフロント面にはめ込みます。表示の数字の順番に操作することによって、CDプレーヤー、チューナーの操作ができます。

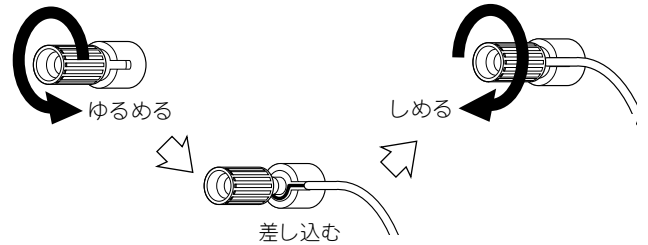
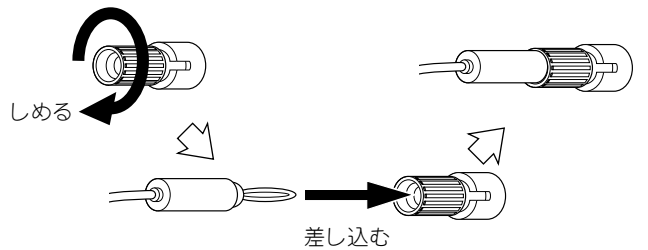
## 接続の方法

**1.** スピーカーコードの先端の被覆をはがします。

**2.** スピーカーコードをつなぎます。

本機出力端子に、スピーカーコードを接続してください。出力端子をゆるめコードの芯線部分を差し込み、端子をしめます。
PLS-1310のスピーカー端子は、バナナプラグにも対応しています。

●スピーカーコードは、スピーカーの+端子とアンプの+端子（i、p）に、スピーカーの-端子とアンプの-端子（o、a）に接続してください。極性は間違えないようにしてください。接続の際、スピーカーコードの芯が端子からはみ出したりして他の端子に接触しないように注意してください。

**※すべての接続が終わるまでは電源コードをコンセントに差し込まないようにしてください。**

スピーカーコードで接続する場合

バナナプラグで接続する場合

| スピーカーコードの極性（+, -）を間違えますと、音 |
|---|

※アンテナの接続方法は16ページを参照してください。

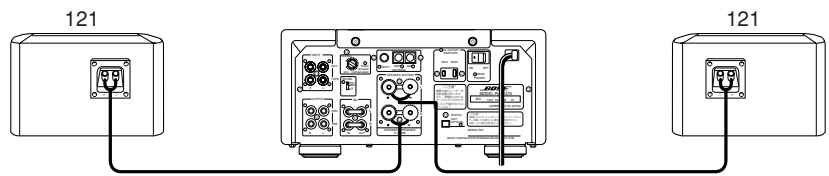
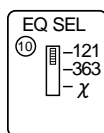
## スピーカーの種類による設定の方法

### ◆ モデル121と接続 ◆

リアパネル上のイコライザーのスイッチのポジションは、下図のように121に合わせてください。

リアパネルの設定について

121

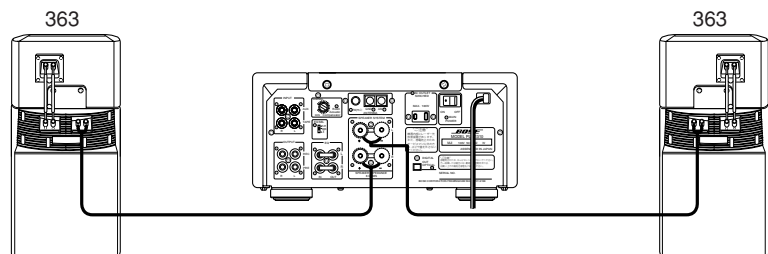
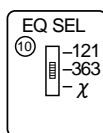
121

### ◆ モデル363と接続 ◆

リアパネル上のイコライザーのスイッチのポジションは、下図のように363に合わせてください。

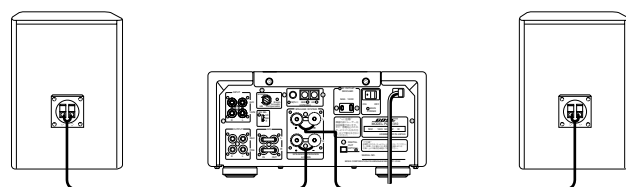
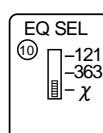
363

363

リアパネルの設定について

EQ SEL
⑩ 121
363
χ

### ◆ 121、363以外のスピーカーと接続 ◆

リアパネル上のイコライザーのスイッチのポジションは、下図のようにχに合わせてください。

リアパネルの設定について

# スピーカーの設置場所について

**お聴きになる位置は、図のように左右のスピーカーを底辺とした二等辺三角形の頂点が理想的です。**

## 設置について

スピーカーの再生音は、スピーカーを設置する場所やリスニングルームの状況などに大きく影響されます。より良い再生音が得られるよう次の点を考慮したうえ、設置してください。

●出きるだけ遮音された静かな部屋でご使用ください。

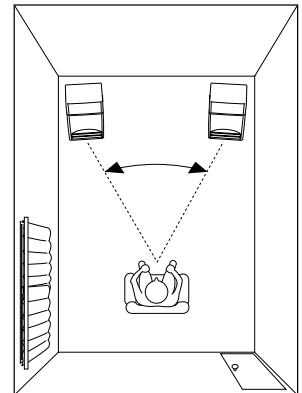
●スピーカーは、聴取される耳の高さとほぼ同じになるように設置するのが理想です。

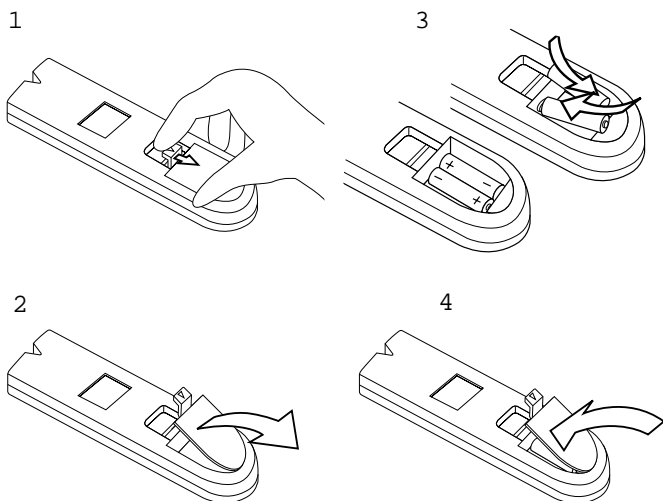
●音質は部屋の音響特性によって変化します。室内に吸音処理することによって、周波数に対する残響時間のバラつきを抑え良好な再生音を得ることができます。

●スピーカーの正面にガラス戸や壁面などありますと、音の反射や共振が起こりやすくなります。この場合、カーテンや厚手の布などをかけて、吸音処理することをおすすめします。

●スピーカーを固い床などに直接置いてご使用されますと、音の反射や共振が起こりやすくなります。この場合、じゅうたんを敷くことによって防止することができますが、じゅうたんの厚みや質によっては、中高域が吸収されすぎることがありますのでご注意ください。

●ステレオ再生の場合、左右のスピーカーができるだけ同じ音響条件になるように設置してください。左右のバランスがそろっていないと、定位がぼやけたり焦点の定まらない音になります。

●ステレオ再生の場合、左右のスピーカーの間隔は聴取位置との相関によって変わります。通常聴取位置から左右のスピーカーをはさんだ角度は40〜60度くらいが良く、あまり狭くすると十分なステレオ感が得られなくなります。

# リモコンの使い方

## ◆ 電池の入れかた ◆

1 リモコンを裏返しにします。

2 指を使って図のように電池ホルダーを引き出します。

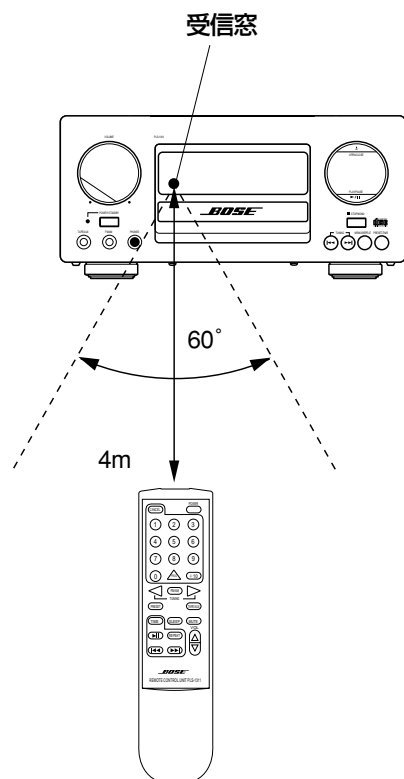
3 電池ケースに電池を入れます。内部の表示のように電池の

**⚠ 注意** 乾電池を誤って使用すると液漏れや破裂などの危険があります。つぎの点についてご注意ください。（電池の注意事項もよく見てください。）

●乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示通りに正しく入れてください。

●新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。

●乾電池には同じ形状のものでも電圧のことなるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。

●長い間（1か月以上）使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液を良くふきとってから新しい電池を入れてください。

リモコンの電池が消耗するとリモコンの動作範囲が狭まってきて効きが悪くなってきます。このような症状がでてきたらリモコンの電池を交換してください。

## ◆ リモコンキーの名称と使い方 ◆

+-を間違えないように気を付けてください。

4 電池ホルダーをもとにもどします。

1 POWER（パワー）キー

電源をON / OFFするキーです。本体のPOWER / STANDBYキーと同じ機能です。（10、26ページ参照）

2 CANCEL（キャンセル）キー

プログラムした曲を削除するときに使用します。このキーを押すと最後にプログラムした曲番を削除します。

3 数字キー

演奏曲、または、プログラムする曲の順番を指定するときに使用します。例えば3曲目を指定するときは、〈3〉キーを押します。12曲目の場合は、〈＋10〉を一度押した後〈1〉、〈2〉の順に押します。

4 PROG（プログラム）キー

CDの中から好きな曲を選んで再生するときや、演奏する曲の順番をプログラムするときに使用します。

5 TUNING（チューニング）キー

チューナー時このキーを使って周波数を放送局に合わせます。本体の TUNING（|◀◀ ▶▶|）キーと同じです。（17、27ページ参照）

6 FM / AM キー

チューナーモードに切り換えたり、チューナー使用時にFM と AM を切り換えるときにこのキーを使います。本体の FM / AM キーと同じです。（17、26ページ参照）

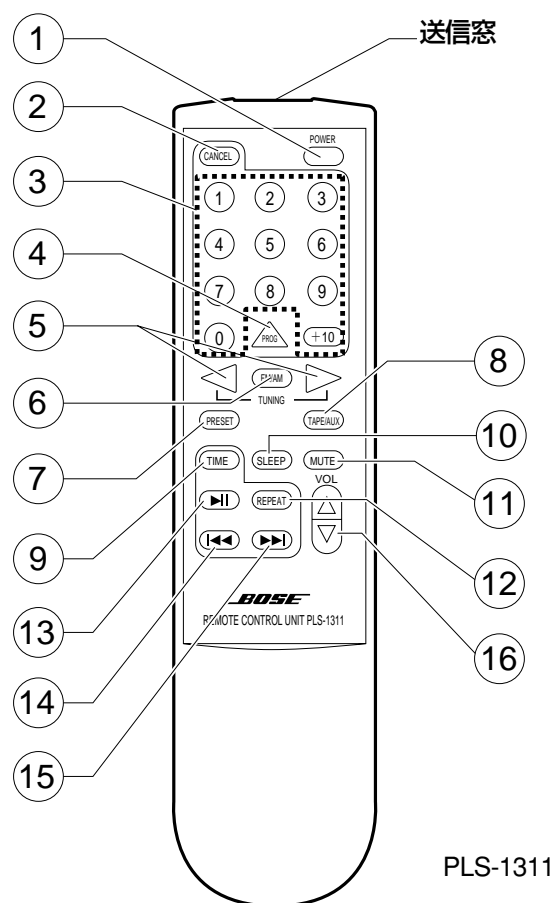
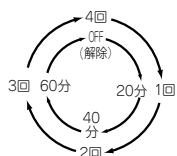
7 PRESET（プリセット）キー

自動選局と、あらかじめ登録（メモリー）してある放送局を呼び出して使いたいときに使用します。本体のPRESET / TIME キーと同じです。（17〜19、27ページ参照）

8 TAPE / AUX （入力切り換え）キー

外部入力のTAPE、AUX に切り換えるときこのキーを使います。本体の TAPE / AUX キーと同じです。（22、26ページ参照）

9 TIME（時間表示切り換え）キー

1回押すと再生中の曲の残り時間を、もう1回押すと全体の残り時間を表示し、さらにもう1回押すと通常の表示に戻ります。キーが押されるたびにこれらの動作を繰り返します。このキーはCD再生時のみ有効です。スリープモード時にこのキーを押すと時間表示をした後、数秒後に表示が、“SLEEP” にもどります。（13ページ参照）

0 SLEEP（スリープ）キー

CD再生時このキーを押すと、現在聞いているCDの最後まで演奏したあと音量を最小にして電源オフします。スリープモードを解除するには、もう一回スリープキーを押します。スリープモード時の表示は、“SLEEP” です。また、チューナー、TAPE、AUX を選択しているときは、スリープキーを押す回数と電源が切れるまでの時間は右のようになります。（10ページ参照）

q MUTE（ミュート）キー

スピーカー出力、ヘッドホン出力をミュート（一時的に消音）します。表示は点滅状態になります。もう一度押すと解除になります。REC OUT端子からの出力は、ミュートされません。（10ページ参照）

w REPEAT（リピート）キー

CDモード時にこのキーを押すと、同じ曲を繰り返して聴くことができます。本体のMEMO / REPEATキーと同じです。（13、27ページ参照）

e ▶II PLAY/PAUSE（CD再生／一時停止）キー

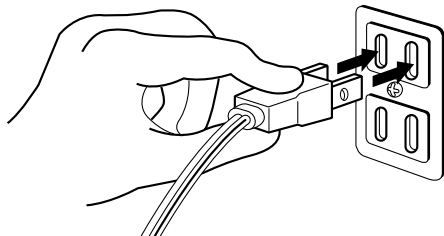
CDの再生／一時停止をするキーです。本体のPLAY/PAUSE キーと同じ機能です。（10、12、26ページ参照）

r |◀◀ 選曲キー（戻し、早戻し）

# 電源ON／OFFのしかた

**※スピーカーコードの接続に間違いがないか、もう一度確認してください。**

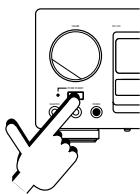
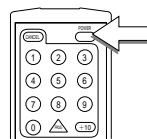
**※電源を入れる前は、必ずVOLUMEつまみを反時計方向に回して音量を最小にしておいてください。**

**1.** 電源プラグをコンセントに差し込みます。

**電源コードの極性について**

本機の電源コードには極性表示がついているものを採用しています。接続するACコンセントの極性を合わせることによって音質がよくなることがあります。家庭用ACコンセントに極性表示がある場合（一般的には、アース側の差し込み口が長くなっています）、電源コードの白線が印刷されている方をアース側に合わせて差し込んでください。また、背面のACコンセントもアース側の差し込み口が長くなっています。他の機器を接続するときは、極性を合わせることをおすすめします。

**2.** 本体裏側のMAIN POWER（主電源）スイッチをONにします。

### ◆ POWER/STANDBYスイッチで電源を入れる ◆

POWER/STANDBY（電源）キーを1回押すと電源が入ります。もう1回押すと電源が切れてスタンバイ状態になります。このとき、表示が消灯しSTANDBYインジケーターが点灯します。

### ◆ ►/II PLAY/PAUSEキーを押して電源を入れる ◆

PLAY/PAUSE（再生 / 一時停止）キーを押します。コンパクトディスクトレーにCDがセットしてある場合は、自動的に再生を開始します。また、コンパクトディスクトレーが空の場合は“DISC”を表示します。

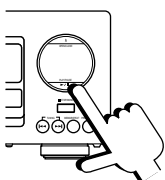
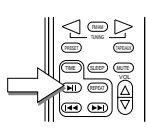
リモコンでも同じ操作ができます。

### ◆ 電源をOFFする方法 ◆

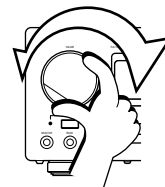
電源がONしているときにPOWER/STANDBY（電源）キーを押すとスタンバイ状態になります。このとき、表示が消灯しSTANDBYインジケーターが点灯します。

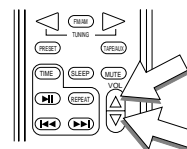
### ◆ スリープ（SLEEP）の使い方 ◆

このキーを押すと一定時間後、自動的に電源が切れます。

- CDを聴いているときにSLEEP（スリープ）キーを押すと今聴いているCDが終了すると自動的に音量を最小にして電源が切れます。
- チューナーや、外部の機器を聴いているときにSLEEP（スリープ）キーを押すと下の図のように動作します。終了時間になると、音量を最小にして電源が切れます。

※この機能は、リモコンを使用したときに使用できます。

# 音量調節のしかた

**本体側の音量つまみで行なう場合**

VOLUME（主音量調整）つまみを、時計方向に回すと音が大きくなます。反時計方向に回すと音が小さくなります。

**リモコンで行なう場合**

VOL（音量調節キー）の▲キーを押し続けている間音量が大きくなり、▼キーを押し続けている間音量が小さくなります。

# CD（コンパクトディスク）を聴いてみましょう

## ◆ CDについて ◆

### 結露現象について

冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がつき、くもってしまう現象、これが結露現象です。CDプレーヤーも冷えきった状態のまま暖かい部屋に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、光学系のレンズ（ピックアップのレンズ部分）に露が生じ（結露）、レーザーによるCDからの信号読み取りができず、プレーヤーが動作しないことがあります。このような現象が生じた場合は、周囲の状況にもよりますが、電源を入れ1時間程放置すると結露が取り除かれプレーヤーは正常に動作するようになります。

ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持って取り出してください。

### ディスクの取り扱いについて

**ディスクの表面にキズをつけないよう大切に扱ってください。**

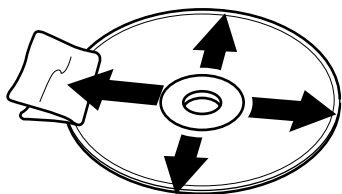
ディスクのセットは、必ずレーベル面を上にして、セットしてください（CDの演奏は片面だけです）。

七色に輝く面が表面です。レーベル面が裏面になります。従来のレコードプレーヤーと異なり、CDプレーヤーは、レーザー光線のスタイラスでディスクの下側からディスクに触れることなく情報を読み取ります。したがってCDは従来のレコードのように、使っているうちに性能が劣化するようなことはありません。

※CDは、2枚以上重ねて置いたり、CD以外のものをトレーの上に置かないでください。
故障の原因になります。

ディスクを持つ場合には、演奏面（ラベルの印刷していない面）に触れないように、両端をはさんで持つか、中央の穴と端をはさんで持ってください。

### ディスクの表面はいつもきれいに

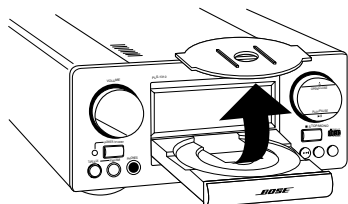
CDの表面には最大約60億個の情報が入っています。ディスクの表面を拭くときは必ずCD専用のクリーナーを使用して下の図のように拭いてください。

※CDは、プラスチック製です。従来のアナログディスク用のクリーナーや帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品を使用すると、CDの表面に悪い影響を与えますので絶対に使用しないでください。

### CD保管上の注意

CDはケースに入れて正しく保管しましょう。ディスクを大切にするため次のような場所に置くことはさけてください。

- ●直射日光の当たる場所。
- ●暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
- ●車の中などの高温になる場所。
- ●投光照明機などの発熱物の近くの場所。
- ●極端に寒い場所。
- ●湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
- ●屋外や直接水のかかるところ。

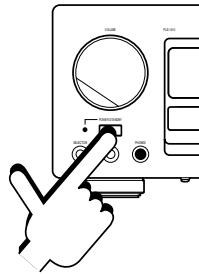
⚠ **注意** ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

## ◆ CDをセットする前に ◆

輸送中の機器の保護のためにCDトレーに輸送プロテクターがセットしてあります。ご使用の前には必ず輸送プロテクターをはずしてください。また、はずしたプロテクターは、後日輸送するときのために保管しておくことをおすすめします。

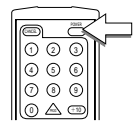
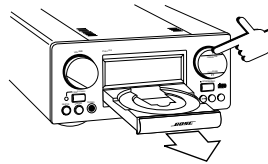
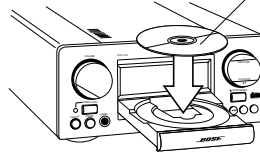
輸送プロテクター

# CDを演奏してみましょう

## ・全ての結線をもう一度チェックしてみましょう

**1.** フロントパネルのPOWER/STANDBYキーを押して電源をONにします。

こんな方法も

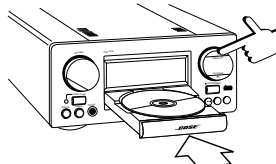
PLAY/PAUSEキーを押して電源を入れることもできます。

リモコンでも同じ操作ができます。

**2.** ≜ OPEN/CLOSEキーを押してCDを出します。

**3.** トレーにお聴きになりたいCDをレーベル面を上にして中央に静かにおいてください。このトレーは 8 cmシングルCDもアダプターなしでそのまま再生することができます。

CDは、2枚以上重ねて置いたり、CD以外のものをトレーの上に置かないでください。故障の原因になります。

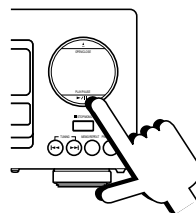
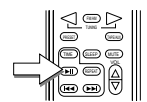
**4.** ≜ OPEN/CLOSEキーを押してCDを元に戻します。

※このとき、CDがトレーの上で少しでもずれているとパネル表示に“DISC”と表示して止ります。この場合は、もう一度2～4の操作をやりなおしてください。

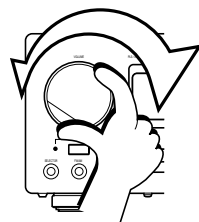
パネル表示

こんな方法も

PLAY/PAUSEキーを押すだけでもスタートできます。

**5.** ►/II PLAY/PAUSEキーを押すとCDの再生が始まります。

※入力モードがCD以外の場合でも ►/II PLAY/PAUSEキーを押すと自動的にCDモードに切り換わります。

リモコンでも同じ操作ができます。

**6.** VOLUMEつまみを時計方向にゆっくり回してお好きな音量にしてお聴きください。

再生中に演奏をポーズ（一時停止）するときは、►/II PLAY/PAUSEキーを押します。ポーズを解除するときは、もう１度 ►/II PLAY/PAUSEキーを押します。

再生をやめる場合は、■ STOPキーを押します。

こんな方法も

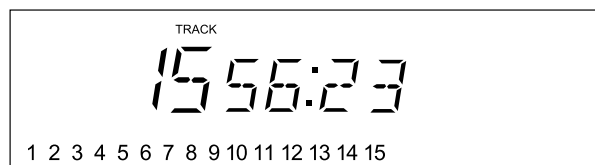
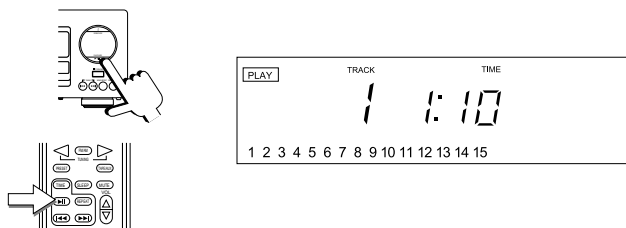
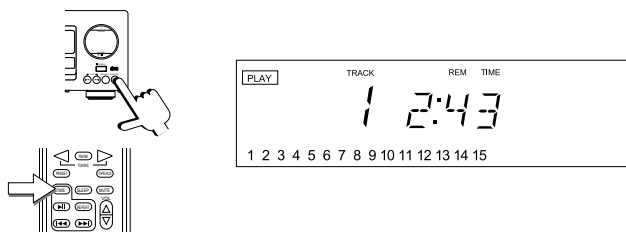
OPEN/CLOSEキーやPOWER/STANDBYキーを押してもCDの再生をやめることができます。

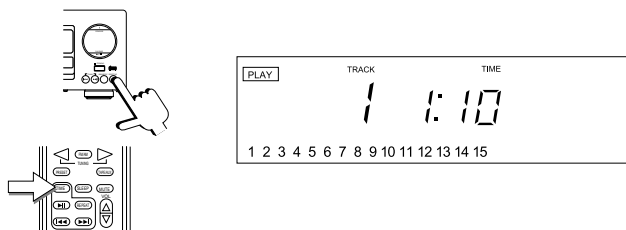
## ◆ TIMEキーの使い方 ◆

CD 再生中か PAUSE（一時停止）中に、本体の PRESET / TIME キーあるいは、リモコンの TIME キーを押すと本体表示部の表示時間を、1曲の残り演奏時間（REMAIN）、ディスクの全曲残り時間（TOTAL REMAIN）に切り換えます。

例えば
曲数（トラック数）が15曲で、全部の演奏時間が56分23秒のCDをセットしたとします。始めに下のような表示がされます。

TRACK

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

**1.** 本体の ►/II（PLAY / PAUSE ）キーあるいは、リモコンの ►II キーを押すと経過時間の表示になります。

**2.** 本体の PERSET / TIME キーあるいは、リモコンの TIME キーを一回押すとその曲（トラック）の残り時間の表示に変わります。

**3.** 本体の PERSET / TIME キーあるいは、リモコンの TIME キーをもう一回押すとCD全体の残り時間の表示に変わります。

**4.** 本体の PERSET / TIME キーあるいは、リモコンの TIME キーをさらに、もう一回押すと一番始めの表示に戻ります。

## ◆ REPEATキーの使い方 ◆

本体のMEMO/ REPEATキーあるいは、リモコンのREPEAT キーを押すと同じ曲を繰り返して聴くことができます。リピートプレーは、一曲リピート、全曲リピート、プログラムリピートの三通りのリピート機能を装備しています。

### 通常再生時のリピートについて

CD再生中に本体の MEMO/REPEAT キーあるいは、リモコンの REPEAT キーを一回押すと現在再生中の曲を繰り返し再生します。もう一回押すとCDの全曲を繰り返し再生します。

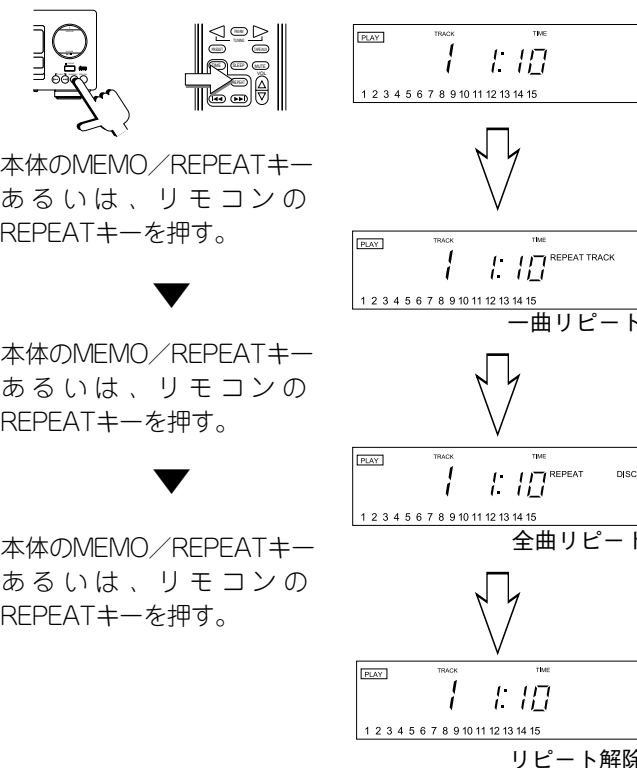
本体のMEMO／REPEATキーあるいは、リモコンのREPEATキーを押す。

一曲リピート

本体のMEMO／REPEATキーあるいは、リモコンのREPEATキーを押す。

全曲リピート

本体のMEMO／REPEATキーあるいは、リモコンのREPEATキーを押す。

リピート解除

### プログラムリピートについて

プログラムプレー中に本体の MEMO / REPEAT キーあるいは、リモコンの REPEAT キーを一回押すと現在再生中の曲を繰り返し再生します。もう一回押すとプログラムした曲順で、プログラムされている曲全てを繰り返し再生します。

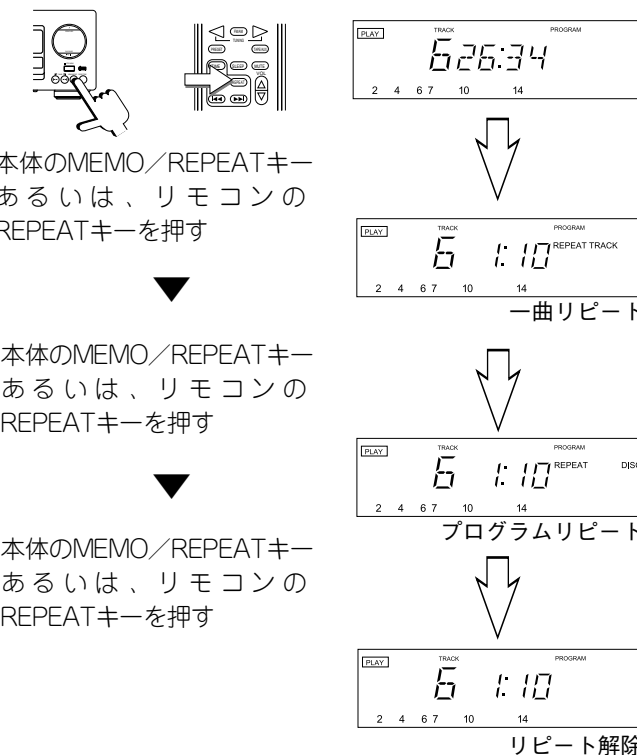
本体のMEMO／REPEATキーあるいは、リモコンのREPEATキーを押す

一曲リピート

本体のMEMO／REPEATキーあるいは、リモコンのREPEATキーを押す

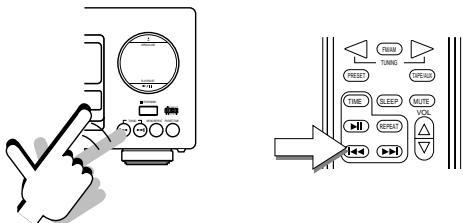
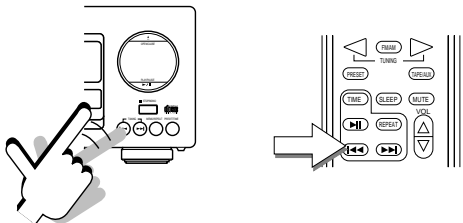
プログラムリピート

本体のMEMO／REPEATキーあるいは、リモコンのREPEATキーを押す

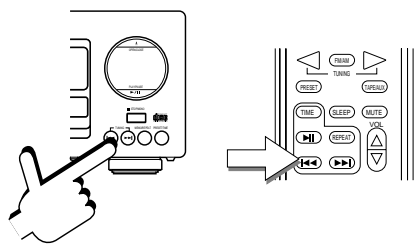
リピート解除

# ◆ 聴きたい曲を選ぶとき ◆

## CDモード（CDを聴く状態）の時に選曲キーを使って、聴きたい曲の頭出しをします

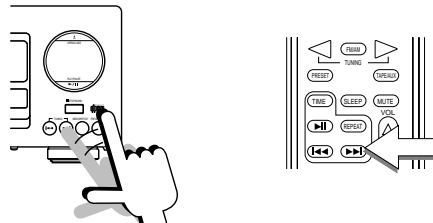
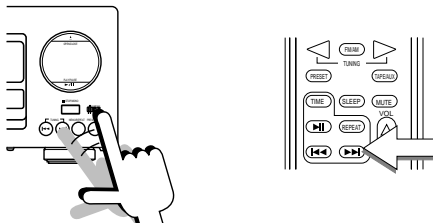
### |◄◄ 選曲（戻し、早戻し）キーを使って選曲する方法

再生中にこのキーを押すと、現在再生中の曲のはじめに戻って再生を開始します。

もう一回押すと、一曲前に戻ります。

最初の曲まで戻ってしまった場合はそのCDの最後の曲に戻ります。キーを押すたびにこれらの動作を繰り返します。

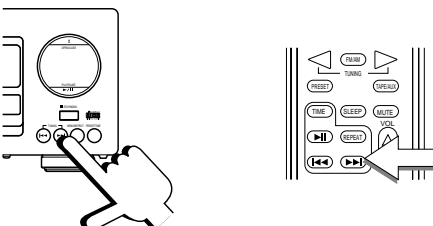
※ポーズ中にこのキーを押すと、指定された曲のはじめでポーズ状態を維持し続けます。停止中にこのキーを1回押すと、最後の曲のはじめから再生を開始します。

再生中にこのキーを押し続けると、現在再生中のところから早戻しをして、キーを放した所から再生を開始します。キーが5秒以上押され続けた場合は自動的に速度を早めます。

※ポーズ中にこのキーを押し続けると、現在ポーズ中のところから早戻しを行ない、キーを放した所でポーズ状態になります。

### ►►| 選曲（送り、早送り）キーを使って選曲する方法

再生中にこのキーを押すと、現在再生中の曲からつぎの曲のはじめに進み再生を開始します。

もう1回押すとさらにつぎの曲に進みます。

最後の曲からさらに,キーを押した場合は、そのCDの最初の曲のはじめに戻ります。キーを押すたびにこれらの動作を繰り返します。

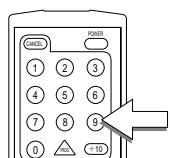
※ポーズ中にこのキーを押すと、指定された曲の先頭でポーズ状態を維持します。停止中にこのキーを1回押すと、2曲目のはじめに進み再生を開始します。

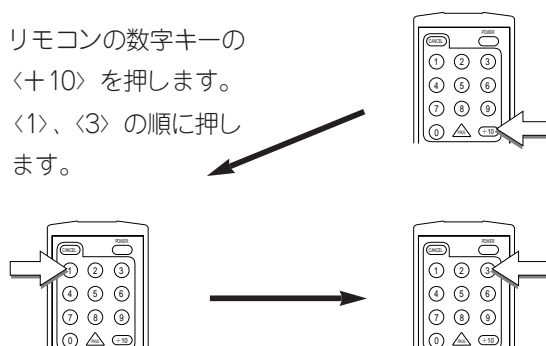
再生中にこのキーを押し続けると、現在再生中のところから早送りして、キーを放した所から再生を開始します。キーが5秒以上押され続けた場合は自動的に速度を早めます。演奏終了時間の約5秒前になるとそれ以上進まなくなり、キーを放すと再生を開始します。

※ポーズ中にこのキーを押し続けると、現在ポーズ中のところから早送りして、キーを放した所でポーズ状態になります。演奏終了時間の5秒前になるとそれ以上進まなくなり、キーを放すとポーズ状態になります。

## CDモード（CDを聴く状態）の時にリモコンの数字キーを使って、聴きたい曲を直接選びます（ダイレクト選曲）

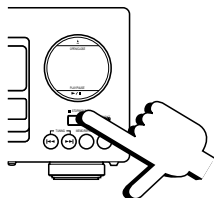
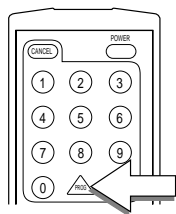
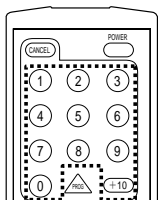
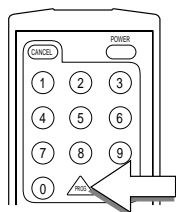
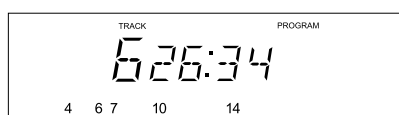
※数字キーは、リモコンにしかありません。リモコ

●たとえば、15曲収録されているCDの9曲目を再生したいとき

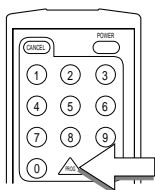
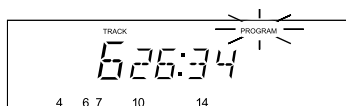
リモコンの数字キーの〈9〉を1回押します。

●13曲目を再生したいとき

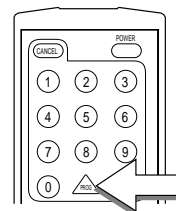
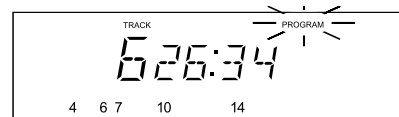
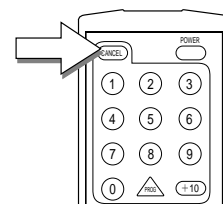
1. リモコンの数字キーの〈＋10〉を押します。
2. 〈1〉、〈3〉の順に押します。

## ◆ 聴きたい順番にプログラム ◆

CDモード（CDを聴く状態）の時に自分の好きな曲だけを選んだり、自分の好きな順番に並べ変えて再生することができます（プログラムできる数は、全部で、30曲です）。

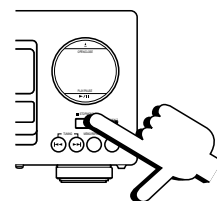
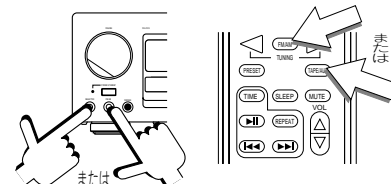
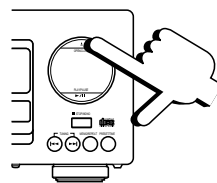
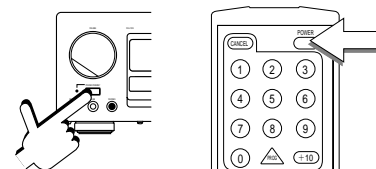
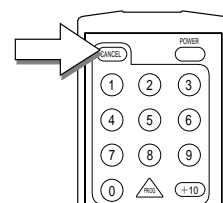
1.本体の STOP キーを押すか、リモコンの ▶II キーを3秒以上押して,CDを停止の状態にします。

2.リモコンの PROG キーを押すと本体表示部に“PROGRAM ”が点滅します。

3.プログラムしたい順に数字キーで希望する曲番を次々と指定します。指定した順番にプログラムされます。

4.最後にもう一度リモコンの PROG キーを押して“ PROGRAM”が点滅から点灯に変わって、プログラム終了です。

### プログラムの追加をする場合

プログラムが残っている場合の停止状態（本体表示部分にPROGRAM が点灯している状態）でリモコンの PROG キーを押します。本体表示部分の “PROGRAM ”が点滅を始め、プログラムを追加することができます。方法は、前項の2〜4を行なってください。

リモコンの PROG キーを押すと本体表示部の“PROGRAM”が点滅を始めます。前項の2〜4を行なってください。

### プログラムした曲を削除する場合

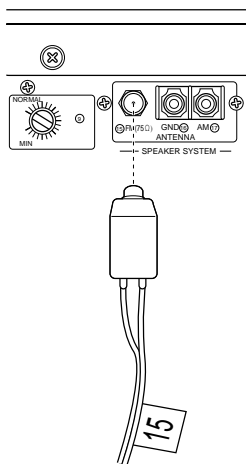
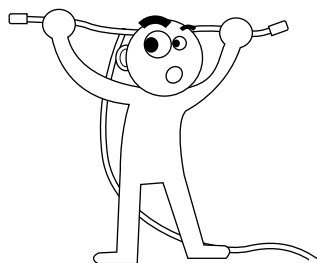
1.CDが停止中に（CDを再生中は、CDを停止させてから）リモコンの PROG を押します。

2.本体表示部に“PROGRAM”が点滅します。

3.リモコンのCANCELキーを押すごとに一番最後にプログラムした曲から順番に削除できます。

### プログラム全体を消去する場合

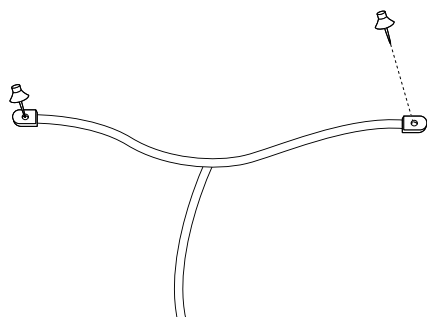
プログラムを消去する方法は、5通りあります。

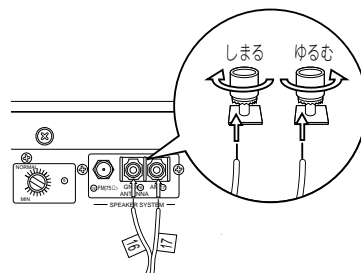
1.本体が停止中に本体のSTOPキーを押すか、リモコンの ▶II キーを3秒以上押します。CDを再生中は,CDを停止させてからもう一度本体のSTOP キーを押します。

2.モードをFM/AMチューナー、または、TAPE/AUX に切り換えるとプログラムが消去できます。

3.本体のOPEN/CLOSE キーを押して一度トレーを開けるとプログラムが消去できます。

4.本体、もしくは、リモコンの POWER キーを押して電源を切ります。

5.プログラム演奏終了後、リモコンの CANCEL キーを押します。

# チューナー（ラジオ）を聴いてみましょう

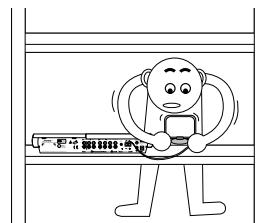
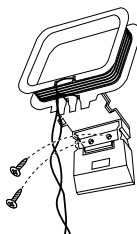
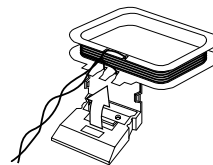
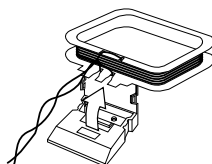
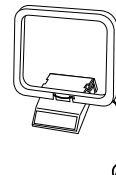
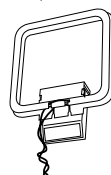
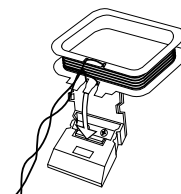
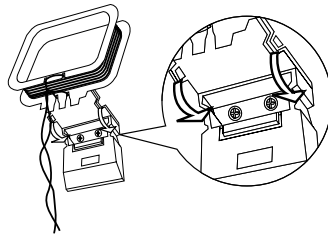
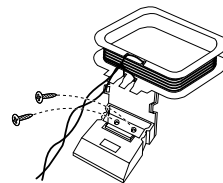
チューナーを聴くためには、必ずアンテナを接続してください。アンテナを接続していないと電波の受信ができずラジオを聴くことができません。

## ・ FMアンテナ接続

**1.** PLS-1310背面のジャックtに付属のFM T 型アンテ

**2.** アンテナアームを広げます。このアンテナの向きや位置をいろいろ試してみて最良の設置場所をさがしてください。

**※FM T 型アンテナは、丸めたままにしておいたり、垂らしたままにしないで必ず T 字型に伸ばして一番良好な受信状態になるように設置してください。**

**3.** アンテナの設置の場所が決まったら押しピンなどでとめてください。

## ・ AMアンテナ接続

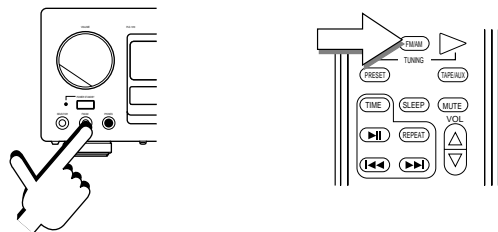
**1.** 本体背面のy、uの端子にy、uの番号が付いているア

**2.** アンテナは本体から45cm以上離して設置するようにしてください。

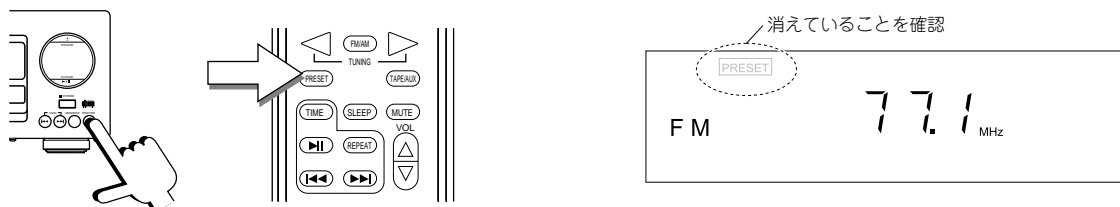
**3.** ループアンテナの向きをいろいろ試して感度がよくなるところを探してください。

**4.** アンテナを組み立ててください。

# ◆チューナーを楽しむとき◆

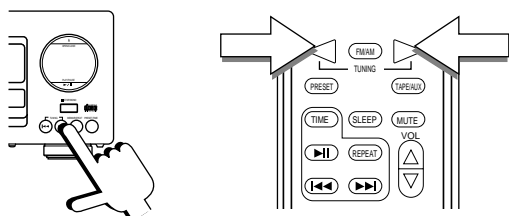
本体あるいは、リモコンのPOWERキーを押して電源を入れると、電源を切る直前のモードになっています。チューナーのモードになっていない場合は、本体あるいは、リモコンのFM/AMキーを押してチューナー（ラジオ）のモードに切り換えます。

注：本体の電源を入れて、ラジオをすでにお聴きになっている場合には、FM/AMキーで、FMとAMを切り換えできます。

## ・FMとAMの切り換え

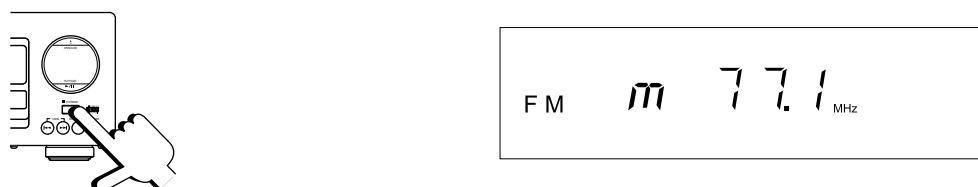
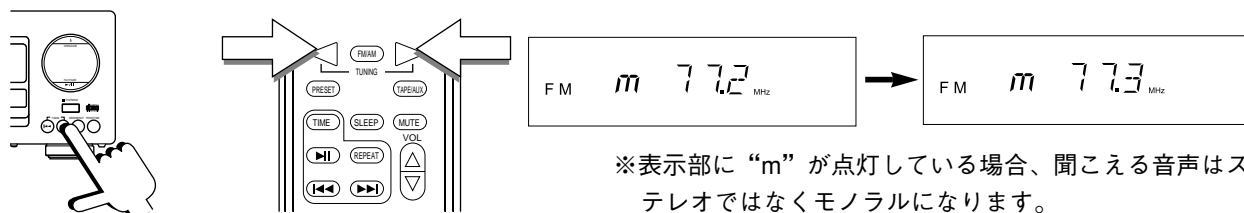
FMとAMを切り換えるには、チューナーモードの時にリモコンあるいは、本体のFM/AMキーを押します。

## ・チューニング（放送局の選局）

プリセットモードになっていないことを確認してください。プリセットモードになっている場合は、表示部に“PRESET”と点灯します。プリセットモードを解除するには、本体のPRESET/TIMEキーあるいはリモコンのPRESETキーを押して表示部の“PRESET”を消してください。

## ・放送局の自動選局

・本体の |◀◀ または ▶▶| キーあるいは、リモコンの ◁ （DOWNサーチ）または ▷ （UPサーチ）キーを押すと自動選局を行ないます。

※選局を始めた周波数から高い、あるいは、低い周波数に順次移って放送局を探します。自動選局できる放送局がない場合、選局を開始した周波数で自動的に停止します。

## ・手動で選局する

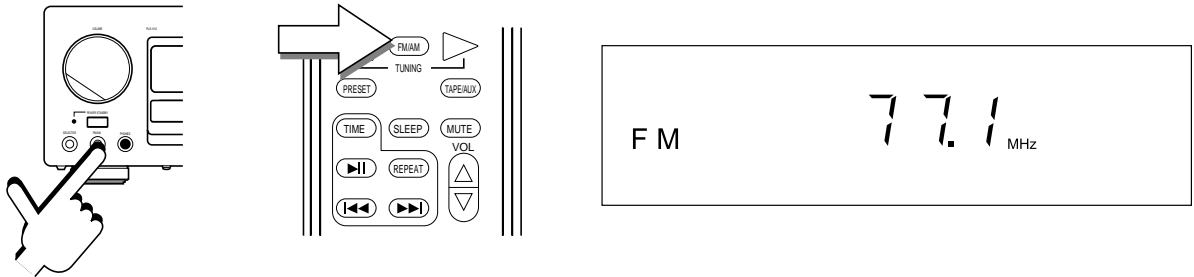
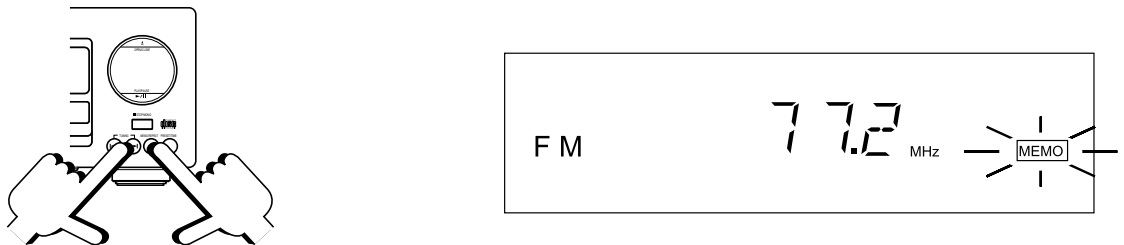
特定の周波数を選ぶときや、ラジオが自動選局できない電波の弱い放送局を選局したい場合には、マニアル選局を行ないます。

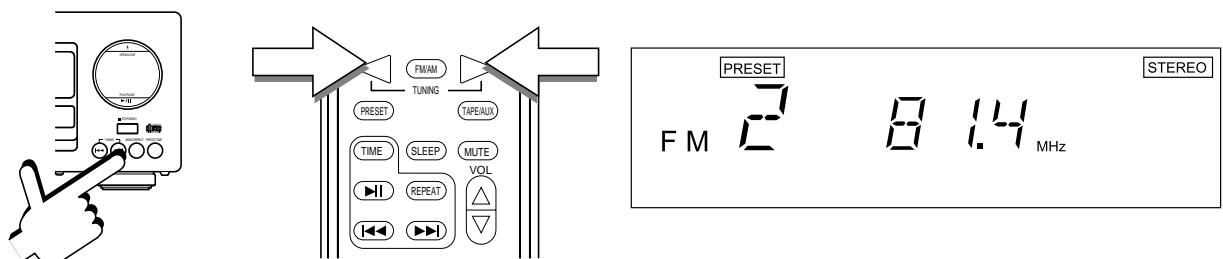
**1.** 本体のSTOP / MONO キーを押します。

**2.** 本体の |◀◀ あるいは、▶▶| キーまたは、リモコンの ◁ （DOWNサーチ）あるいは ▷ （UPサーチ）キーを押すと1ステップづつ周波数が変わります。このキーを使って受信したい放送局に合わせます。

※表示部に“m”が点灯している場合、聞こえる音声はステレオではなくモノラルになります。

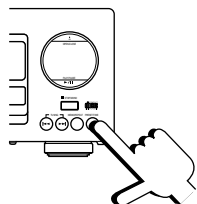
## ◆放送局を登録（メモリー）する◆

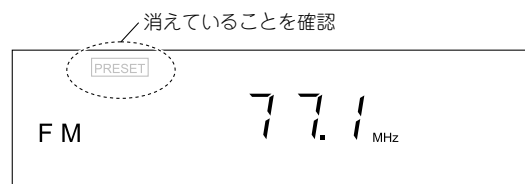
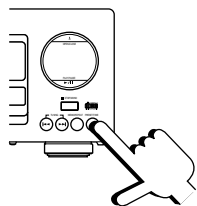
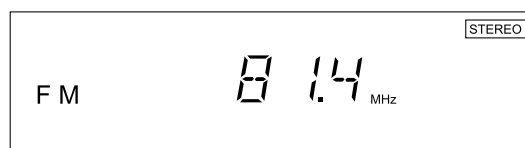
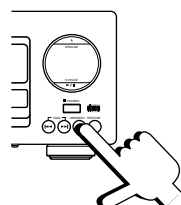
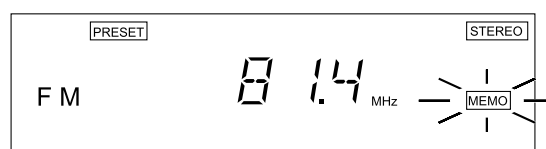
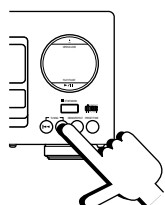
よく聴く放送局の周波数を本機に登録することができます（FM 9 局、AM 9 局)。登録した放送局は、聴きたいときは、簡単な操作で放送局を呼び出すことができます。メモリーに登録する方法は、自動的に登録するオートストアメモリーと、一局づつ登録するマニアルメモリーの2通りあります。

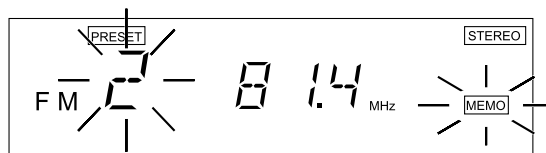
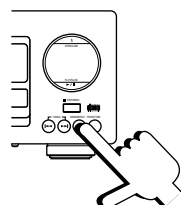
### ・自動的に登録する（オートストアメモリー）

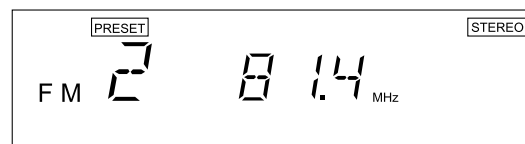
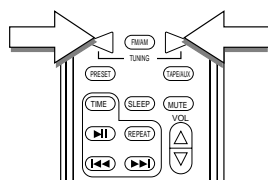
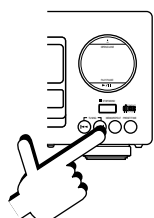
**1.**本体あるいは、リモコンの FM / AM キーを押して登録させたいバンド（FM あるいは、AM ）を選びます。

**2.**本体のMEMO / REPEAT キーを押しながら本体の ▶▶| キーを押してください 。表示部にPERSET が点灯し、MEMO の表示が点滅を始め、自動的に受信可能な放送局の周波数を低い周波数から順に9局メモリーしていきます。

※受信可能な放送局が9局に満たないときは、一番高い周波数まで行った時点でオートストアモードを終了し、1番めの放送局を受信して停止します。また、全く自動受信できる放送局がなかった場合は、バンド内を2周して一番低い周波数を表示して停止します。

**3.**登録してある放送局を選ぶ場合は、プリセットモードになっていること（表示部に“PRESET”が点灯）を確認してから、本体の ▶▶| あるいは |◀◀ キーまたは、リモコンの ◁ あるいは、▷ を押して登録番号を選んでください。プリセットモードになっていない場合は本体のPRESET/TIMEキーかリモコンのPRESETキーを押して表示部に“PRESET”を点灯させてください。

## ・マニアル（手動）で登録する

### 1.選局モードを確認します

プリセットモードになっていないことを確認してください。プリセットモードになっている場合は、本体の PRESET / TIME キーまたは、リモコンの PRESET キーを押してプリセットモードを解除してください（表示部の“PRESET”が消灯していることを確認してください）。

消えていることを確認

### 2.放送局を選びます

自動あるいは手動で登録したい放送局の周波数に合わせます。

### 3.MEMO/REPEATキーを押します

本体のMEMO / REPEAT キーを押します。表示部に“PRESET ”が点灯し、“MEMO”の表示が点滅を始めます。約5秒間点滅していますので、その間につぎの作業を行なってください。

### 4.メモリー番号を選びます

“MEMO”が点滅をしている（約5秒）間に本体の ▶▶| あるいは |◀◀ キーを押し始めてください。本体の ▶▶| あるいは |◀◀ キーで登録したいメモリーの番号を選びます。

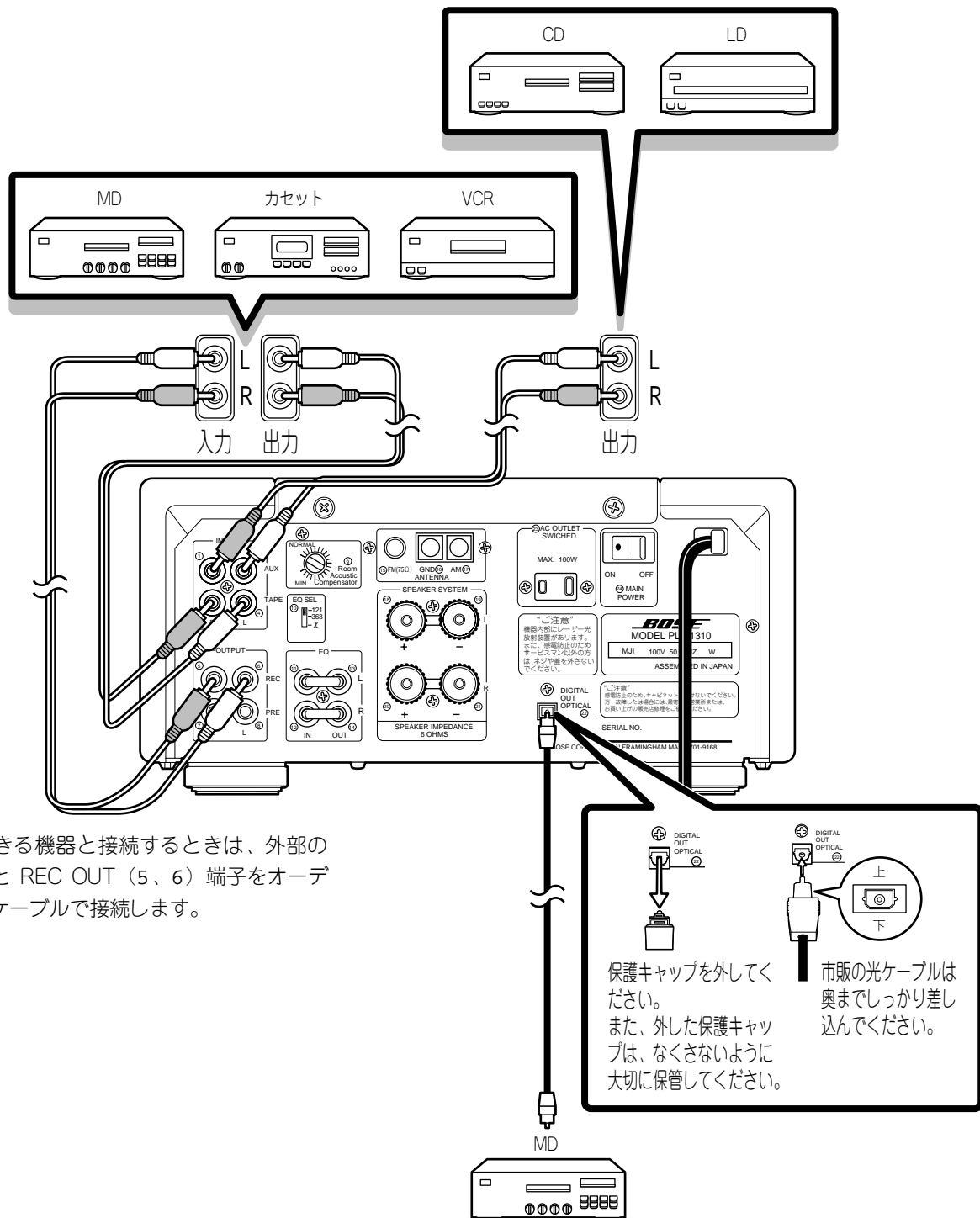
※もし、作業を終了する前に表示部の“MEMO”が消えてしまった場合は、3からやり直してください。

### 5.MEMO/REPEATキーを押して作業を終了します

もう一度本体のMEMO / REPEAT キーを押すと登録作業が終了します。

※もし、作業を終了する前に表示部の“MEMO”が消えてしまった場合は、3からやり直してください。

### 6.登録した放送局を呼び出します

登録してある放送局を選ぶ場合は、プリセットモードになっていること（表示部に“PRESET”が点灯）を確認してから、本体の ▶▶| あるいは |◀◀ キーまたは、リモコンの◁ あるいは、▷ キーを押して登録番号を選んでください。プリセットモードになっていない場合は本体のPRESET/TIMEキーかリモコンのPRESETキーを押して表示部に“PRESET”を点灯させてください。

# その他の機器の接続

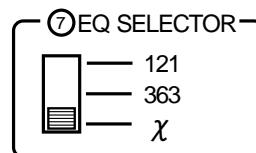
## ◆外部の機器につなぐとき◆

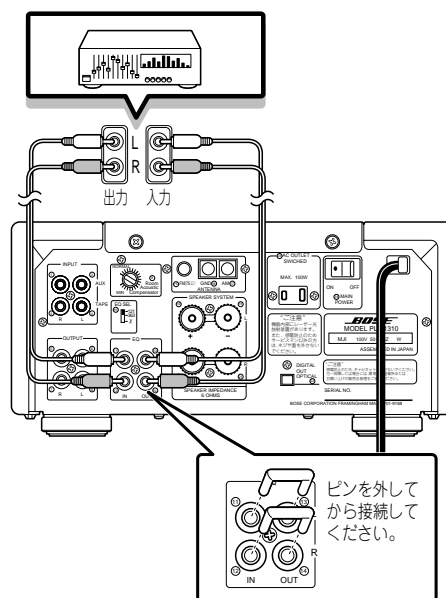
**※全ての接続が終わるまで全ての機器の電源プラグはコンセントからぬいておいてください。**

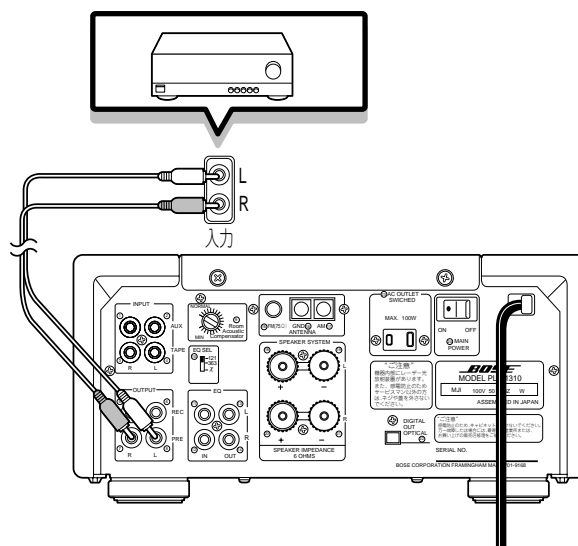
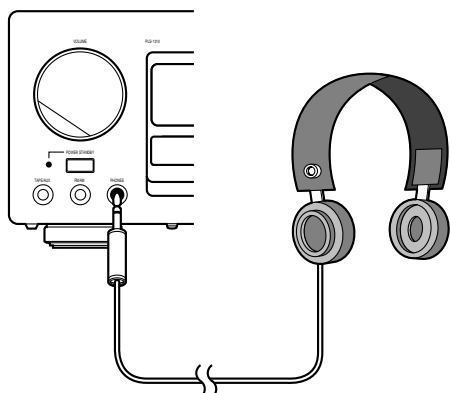
録音ができる機器と接続するときは、外部の入力端子と REC OUT（5、6）端子をオーディオピンケーブルで接続します。

MDなどに、デジタル録音をするときは市販の光ケーブルを購入して背面の DIGITAL OUT OPTICAL 端子と接続してください。接続する機器の取り扱いについては、それぞれの取り扱い説明書をご覧ください。

## ・グラフィックイコライザーなどを接続するとき

EQ端子のショートピンをはずして、OUTPUT（e、r）端子から外部の機器の入力端子へつなぎ、外部機器の出力端子からEQ INPUT（q、w）端子にケーブルをつなぎます。

※はずしたショートピンはなくさないように大切に保管しておいてください。

### ※グラフィックイコライザーなどをお使いになるときのご注意

グラフィックイコライザーなどをご使用になるときは、必ず背面パネルのイコライザー切り換えスイッチをχに設定してください。（28ページ参照）

## ・プリアンプとして使うとき

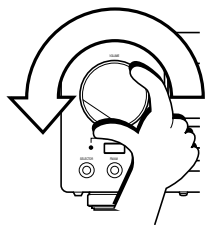
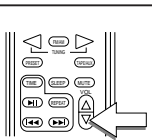
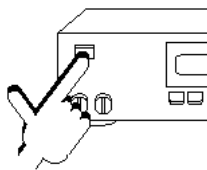
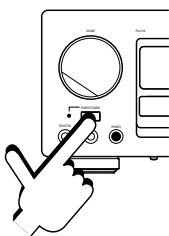
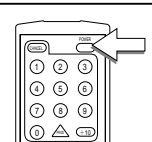
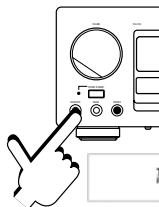
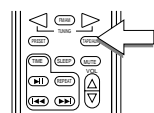
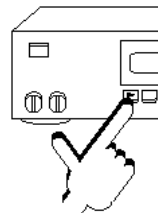
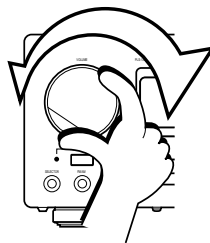
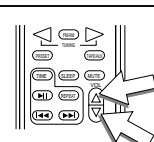
本体背面のOUTPUTのPRE（7、8）端子と外部のパワーアンプを図のように接続します。本機のスピーカー端子に、スピーカーが接続されているとスピーカーからも音がでますのでご注意ください。

## ◆ヘッドホンを使って楽しむとき◆

ヘッドホンのプラグを正面パネルのPHONES端子に挿入してください。
プラグを差し込むと自動的にスピーカーとプリアウトからの音が止ります。
（REC OUTからの信号は止まりません）

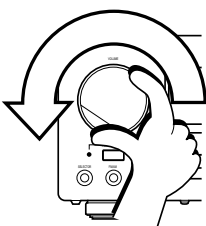
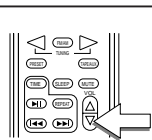
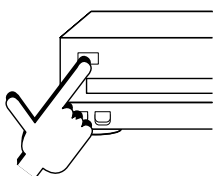
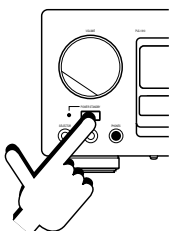
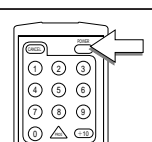
**⚠ 注意**

ヘッドホンをご使用になるときは、音量にご注意ください。あまり大きな音で長時間ご使用になりますと耳を傷める場合があります。耳を刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

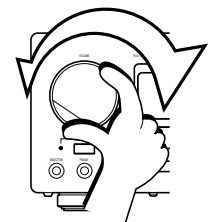
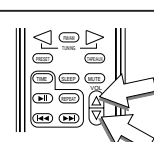
# 外部入力端子に接続されている機器を聴く方法

## TAPEに接続されているオーディオ機器を聴く場合

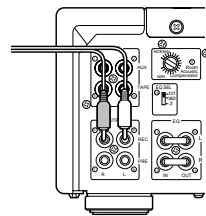
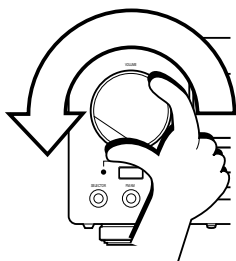
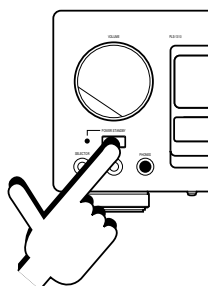
**1.** VOLUMEつまみを反時計方向に回して音量を最小にしておきます。

**2.** お聞きになりたい外部機器のスイッチを入れます。

**3.** フロントパネルのPOWER/STANDBYキーを押して電源をONにします。

**4.** モード表示が“TAPE”になっていることをを確認してください。もしモード表示が“TAPE”になっていない場合は、TAPE/AUXキーを押して“TAPE”にしてください。

**5.** 外部機器の操作を行ないます。（外部機器の操作については、その機器の取り扱い説明書をよく読んで正しく操作してください）

**6.** VOLUMEつまみを時計方向にゆっくり回してお好きな

## AUXに接続されているオーディオ機器を聞く場合

**1.** VOLUMEつまみを反時計方向に回して音量を最小にしておきます。

**2.** お聞きになりたい外部機器のスイッチを入れます。

**3.** フロントパネルのPOWER/STANDBYキーを押して電源をONにします。

**4.** モード表示が“AUX”になっていることをを確認してください。もしモード表示が“AUX”になっていない場合は、TAPE/AUXキーを押して“AUX”にして下さい。

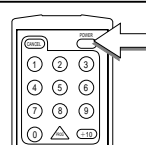
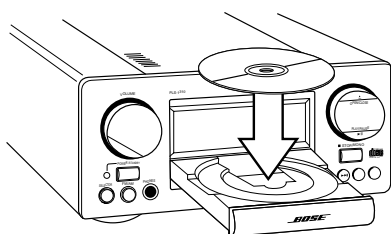
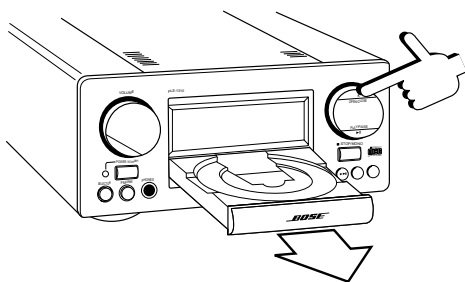
**5.** 外部機器の操作を行ないます。（外部機器の操作については、その機器の取り扱い説明書をよく読んで正しく操作してください）

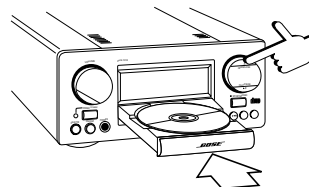
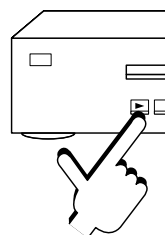
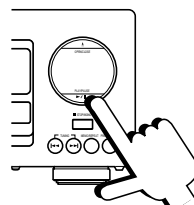
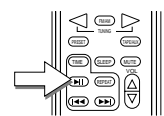
**6.** VOLUMEつまみを時計方向にゆっくり回してお好きな音量にしてお聞きください。

# PLS-1310から録音する方法

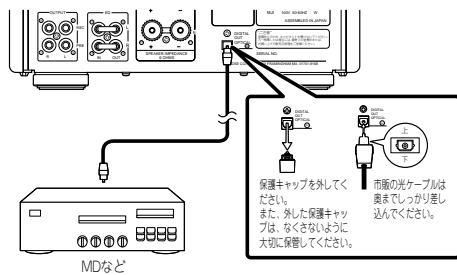
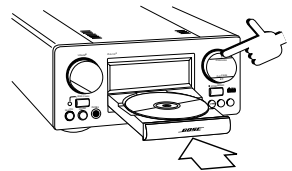
## ◆CDを外部の録音機器で録音する方法◆

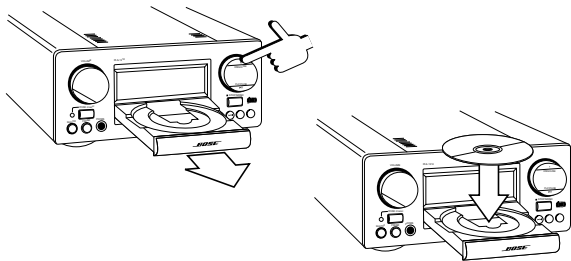
1. 録音するためのオーディオ機器が背面パネルのREC OUT（5､6）端子につながれていることをご確認ください。接続するときは、その他の機器の接続（20ページ）を見ながら機器の接続をしてください。

2. VOLUMEつまみを反時計方向に回して音量を最小にしておきます。

3. フロントパネルのPOWER/STANDBYキーを押して電源をONにします。

こんな方法も

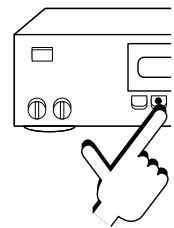
PLAY/PAUSEキーを押して電源を入れることもできます。

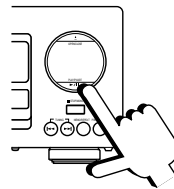
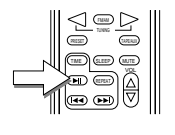
リモコンでも同じ操作ができます。

4. OPEN/CLOSEキーを押してCDトレーを出します。トレーにお聞きになりたいCDをレーベル面を上にして静かに置いてください。

CDは、2枚以上重ねて置いたり、CD以外のものをトレーの上に置かないでください。故障の原因になります。

5. OPEN/CLOSEキーを押してCDトレーを元に戻します。

6. 外部機器の録音をスタートさせます。（外部機器の操作については、その機器の取り扱い説明書をよく読んで正しく操作してください）

7. ►/❚❚ PLAY/PAUSEキーを押すとCDの再生が始まります。録音したい曲が終了したら外部機器の録音を停止します。

リモコンでも同じ操作ができます。

## ・光デジタル出力を使ってCDをデジタル録音する方法

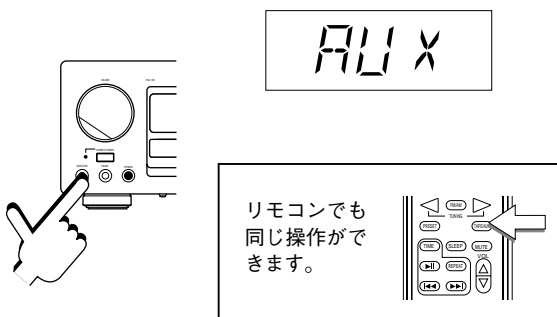
**1.** 背面に光デジタル出力端子とデジタルで録音するための機器が確実に光ケーブルで接続されていることを確認してください。

**2.** OPEN/CLOSEキーを押してCDトレーを出します。トレーにお聞きになりたいCDをレーベル面を上にして静かに置いてください。

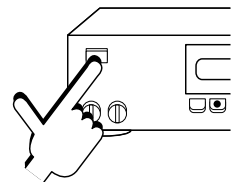
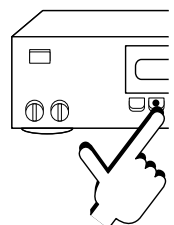
※CDは、2枚以上重ねて置いたり、CD以外のものをトレーの上に置かないでください。故障の原因になります。

**3.** OPEN/CLOSEキーを押してCDトレーを戻します。

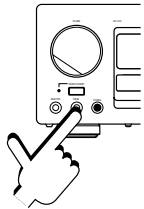
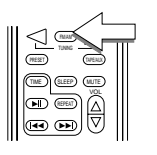
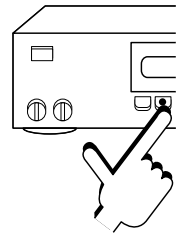
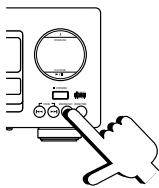
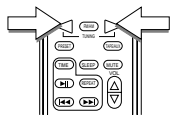
**4.** 外部機器の録音をスタートさせます。（外部機器の操作については、その機器の取り扱い説明書を良く読んで正しく操作してください。）

**5.** ►/❚❚PLAY/PAUSEキーを押すとCDの再生が始まります。

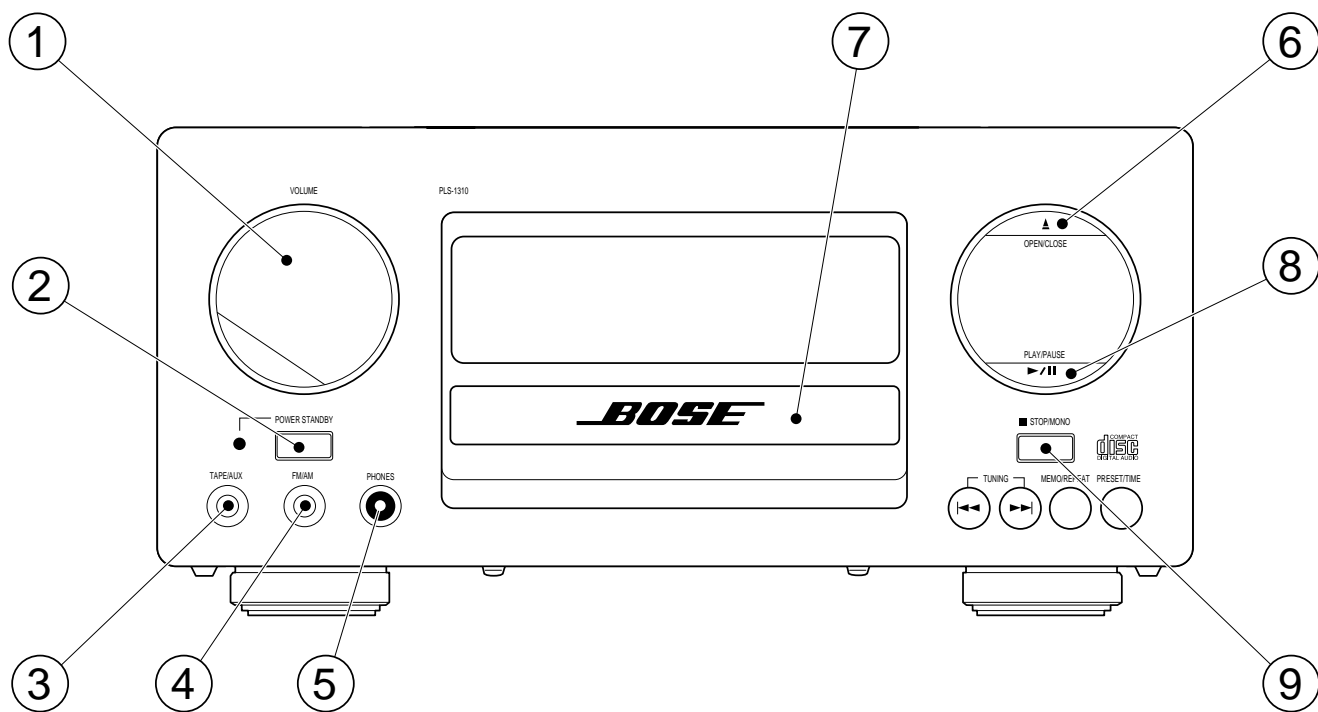
※この端子から出力される信号はCDのみです。入力モードがCD以外のときは、信号は出力されません。

リモコンでも同じ操作ができます。

## ◆AUXから入力された信号を外部の機器で録音する方法◆

**1.** TAPE/AUXキーを押してAUXになっていることを確認してください。もしモード表示が"AUX"になっていない場合は、TAPE/AUXキーを押して"AUX"にしてください。

AUX

リモコンでも同じ操作ができます。

**2.** 外部機器をスタートさせます。（外部機器の操作については、その機器の取り扱い説明書を良く読んで正しく操作してください。）

**3.** 録音用の外部機器で録音をスタートさせます。（外部機器の操作については、その機器の取り扱い説明書を良く読んで正しく操作してください。）

## ◆チューナーの信号を外部の機器で録音する方法◆

**1.** 本体あるいは、リモコンのFM/AMキーを押して、チューナーモードにします。

**3.** 外部機器の録音をスタートさせます（外部機器の操作については、その機器の取り扱い説明書を良く読んで正しく操作してください）。

**2.** 録音したい放送局にチューニングします（17ページ参照）。

※REC OUT端子からはCD、FM/AMの信号、および、AUX端子から入力された信号が出力されます。TAPE入力端子から入力した信号はREC OUT端子から出力されませんのでご注意ください。
また、光デジタル出力端子からはCDの信号のみが出力されます。

# 各部の名称および機能　前面パネル

### 1 VOLUME（主音量調整）

つまみを時計方向に回すと音が大きくなります。反時計に回すと音が小さくなります。回転型モーター駆動ボリュームを採用していますので、リモコンでもUP/DOWNができます。

### 2 POWER/STANDBY(電源)スイッチと STANDBYインジケーター

1回押すと表示部に“ENJOY”、“BOSE”、“SOUND”と表示して電源が入ります。もう一回押すと、電源が切れてスタンバイ状態になります。このとき、表示が消灯しSTANBYインジゲーターが点灯します。

※入力モード(CD,FM/AM,TAPE,AUX)はラストメモリーです。POWERスイッチで電源を再びONしたときは、電源を切る前の設定になります。ただし、初期モードはCDです。

### 3 TAPE/AUX（入力切り換え）キー

TAPEとAUXの切り換えを行なうキーです。入力モードがCDやチューナーの場合は、1回押すと入力信号がCDからTAPE入力に切り換わり、表示が“TAPE”に変わります。もう1回押すとAUX入力に切り換わり、表示も“AUX”に変わります。キーが押されるたびにTAPEとAUXの切り換え動作を繰り返します。

### 4 FM/AMキー

チューナーモードに切り換えたり、FMとAMを切り換えるときにこのキーを押します。

### 5 PHONES（ヘッドホンジャック）

標準のステレオヘッドホンプラグが使えます。プラグを差し込むと自動的にスピーカーとプリアウトからの音が切れます。

### 6 ▲ OPEN/CLOSEキー

CDトレーのイジェクトとロードを行ないます。

**CDモードのとき**

1回押すとトレーがイジェクトされ、表示は“DISC”になります。もう1回押すとトレーがロードされます。キーが押されるたびにこれらの動作を繰り返します。CDトレーにCDがセットしてある場合は、CDの全演奏時間を表示をします。CDトレーが空の場合は“DISC”を表示します。

**その他のモードのとき**

モードは切り換わることなく、CDモードのときと同じ動作をします。

### 7 CD（コンパクトディスク）トレー

CDをこのトレーにセットします。CDトレーがイジェクトされた状態で軽く押すとCDトレーがロードされます。

### 8 ►/II PLAY/PAUSE(CD再生/一時停止)キー

CDを再生するときや一時停止するときに、このキーを押します。また、セットの電源がONされていないときに、このキーを押すと表示部に“ENJOY”、“BOSE”、“SOUND”と表示してメイン電源が入ります。このとき、CDトレーにCDがセットしてある場合は、自動的に再生を開始します。CDを再生中にこのキーを押すと、一時停止状態となり、さらにもう一回押すと再生を再開します。また、CDトレーが空の場合は“DISC”を表示します。

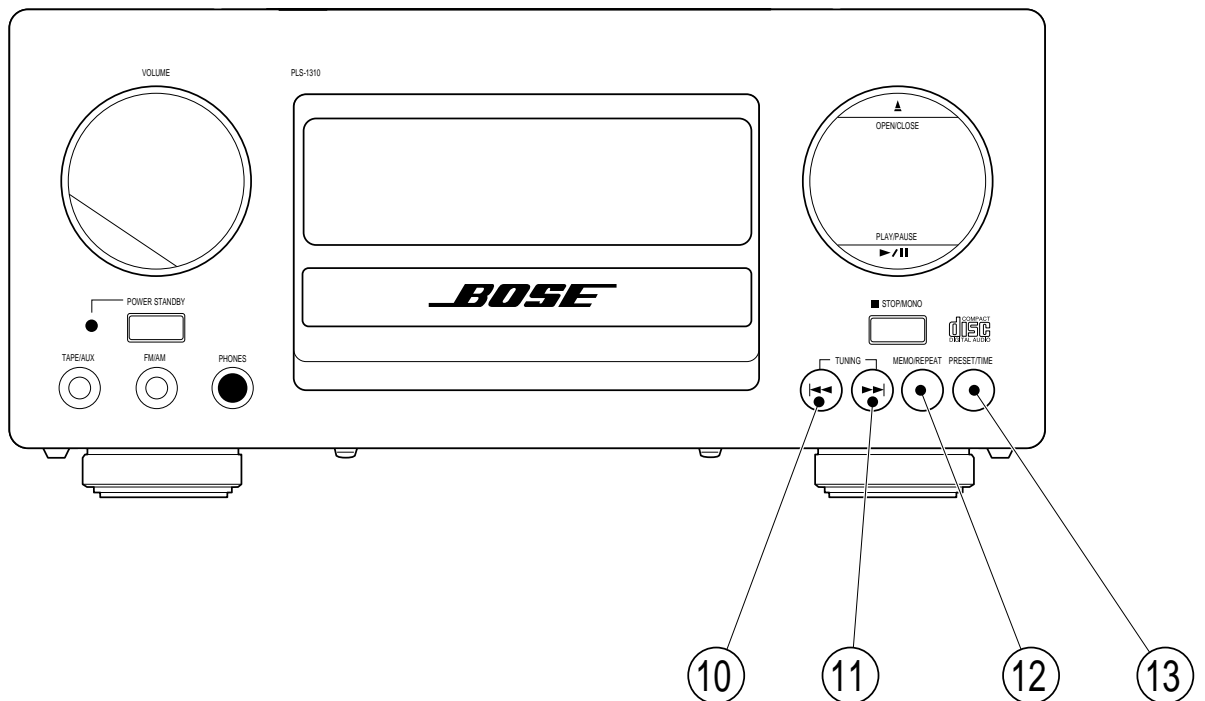
### 9 ■ STOP/MONO（停止／モノ）キー

**CDモードのとき**

CD再生中にこのキーを押すと再生が中止され全曲数と全演奏時間を表示します。

**チューナーモードのとき**

マニアルチューニングとオートチューニングの切り換えをこのキーで行います。

また、マニアルチューニングのときは、聞こえてくる音声がモノラルになります。

## 0 |◀◀選曲（戻し、早戻し）キー

**CDモードのとき**

- 再生中にこのキーを押すと、現在再生中の曲のはじめに戻って再生を開始します。つづけて押すと1曲ずつ前に戻ります。最初の曲まで戻ってしまった場合はそのCDの最後の曲に戻ります。キーを押すたびにこれらの動作を繰り返します。また、このキーを押し続けると、現在再生中のところから早戻しをして、キーを放した所から再生を開始します。キーが5秒以上押され続けた場合は自動的に速度を速めます。
- ポーズ中にこのキーを押すと、指定された曲のはじめでポーズ状態を維持し続けます。また、このキーを押し続けると、現在ポーズ中のところから早戻しをして、キーを放した所でポーズ状態になります。キーが5秒以上押され続けた場合は自動的に速度を速めます。
- 停止中にこのキーを一回押すと、最後の曲のはじめから再生を開始します。

**チューナーモードのとき**

- このキーを押すと、低い周波数の方へサーチを開始します。また、マニアルモード時は1ステップ（FMの場合は100kHz、AMの場合は9kHz）づつ周波数が減っていきます。

## q ▶▶|選曲（送り、早送り）キー

**CDモードのとき**

- 再生中にこのキーを押すと、現在再生中の曲からつぎの曲のはじめに進み再生を開始します。もう一回押すとさらにつぎの曲に進みます。最後の曲からさらに、キーを押した場合は、そのCDの最初の曲のはじめに戻ります。また、このキーを押し続けると、現在再生中のところから早送りをして、キーを放した所から再生を開始します。キーが5秒以上押され続けた場合は自動的に速度を速めます。演奏終了時間の5秒前になるとそれ以上進まなくなり、キーを放すと再生を開始します。
- ポーズ中にこのキーを押すと、指定された曲の先頭でポーズ状態を維持し続けます。また、このキーを押し続けると、現在ポーズ中のところから早送りをして、キーを放した所でポーズ状態になります。演奏終了時間の5秒前になるとそれ以上進まなくなり、キーを放すとポーズ状態になります。
- 停止中にこのキーを一回押すと、2曲目のはじめに進み再生を開始します。

**チューナーモードのとき**

- このキーを押すと、高い周波数の方へサーチを開始します。また、マニアルモード時は1ステップ（FMの場合は100kHz、AMの場合は9kHz）づつ周波数が増していきます。

## w MEMO/REPEAT（メモ／リピート）キー

**CDモードのとき**

このキーを押すと同じ曲を繰り返して聴くことができます。リピートプレーは、1曲、全曲、プログラムリピートの3通りがあります。

**チューナーモードのとき**

放送局をメモリー（登録）するときに使います。

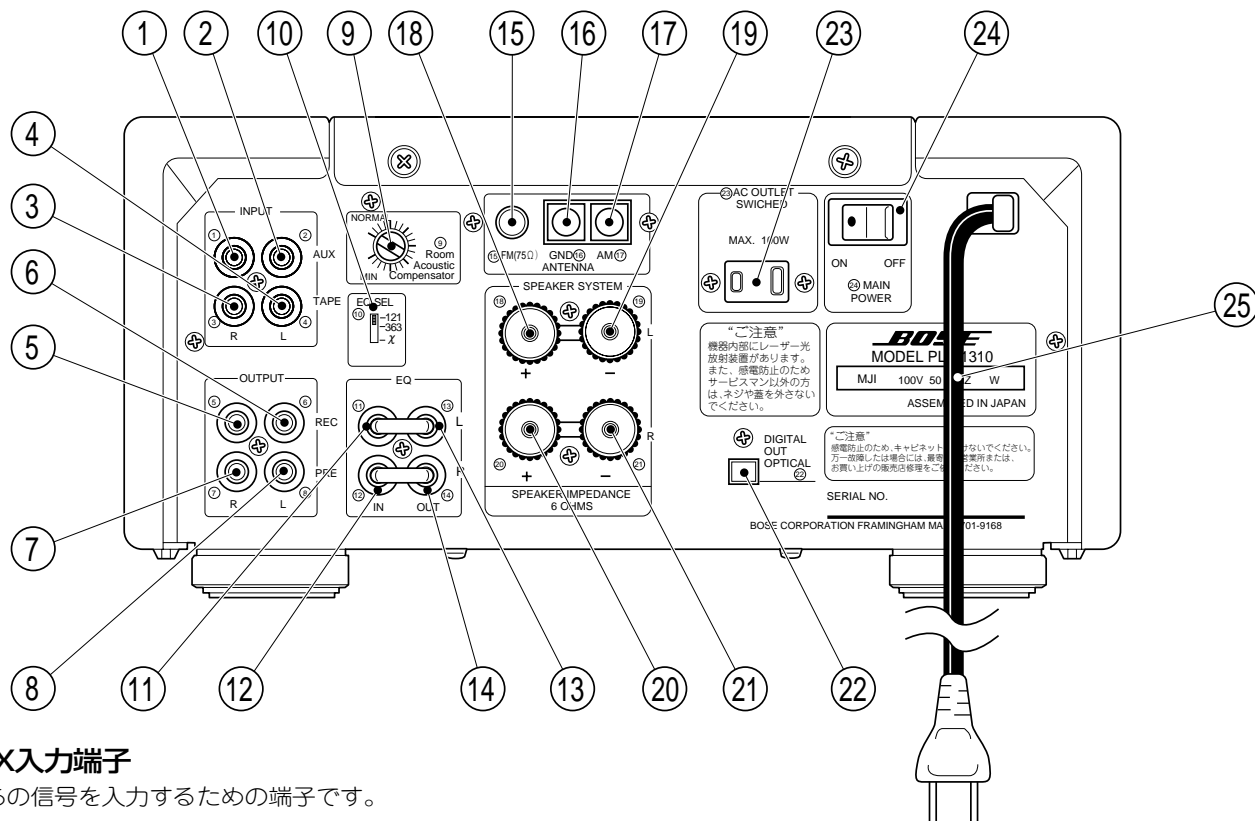
## ePRESET/TIME（プリセット／タイム）キー

**CDモードのとき**

時間表示を切り換えるときに使います。

**チューナーモードのとき**

チューナーの選局モードをプリセット選局モードにするときに使います。

# 各部の名称および機能　背面パネル

### 1、2 AUX入力端子
外部からの信号を入力するための端子です。

### 3、4 TAPE入力端子
外部からの音声を入力するための端子です。

### 5、6 REC OUT端子
この端子から出力される信号は、ボリュームに連動しません。
※入力モードが外部入力の"TAPE"以外のときにこの端子から信号が出力されます。

### 7、8 PRE OUT端子
ボリュームに連動した信号が出力される端子です。

### 9 RoomAcoustic Compensator調整つまみ
部屋の音響特性の違いによって低域の音量を調節するためのつまみです。時計方向にまわすと低域の音量は減少します。

### 0 EQ SELECTOR（イコライザー切り換えスイッチ）
使用するスピーカーに合わせて専用のイコライザーを選択するためのスイッチです。121、363、Ｘのポジションがあります。

### q、w 、e、r EQ（外部イコライザ用）端子
グラフィックイコライザーなどの機器をつなげるための入出力端子です。

### t FMアンテナ端子
FMアンテナを接続する端子です。付属のT型FMアンテナを接続してください。

### y、u AMアンテナ端子
AMアンテナを接続する端子です。付属のAMループアンテナを接続してください。

### i、o、p、a スピーカー出力端子
スピーカーコードを接続する端子です。バナナプラグ対応の大型スピーカーターミナルを採用しています。

### s DIGITAL OUT OPTICAL（光デジタル出力端子）
CDの信号をデジタル録音するための出力端子です。市販の角形光コネクタープラグのオーディオ用光伝送ケーブルをこの端子に接続します。

### d AC アウトレット
外部機器にAC電源を供給するためのコンセントです。POWER/STANDBYキーと連動しています。最大100WまでのAC出力です。メモリーバックアップをしている機器をつなぐとメモリーが消える場合がありますのでご注意ください。

### f MAIN POWER（主電源）スイッチ
製品の主電源のON/OFFを行ないます。また、本機内部のマイコンは、このスイッチをOFFにして、数秒後再びONすればリセットされます。

### g 電源コード
商用電源100V 50Hz/60Hzに接続します。極性表示付きケーブルを使用しています。

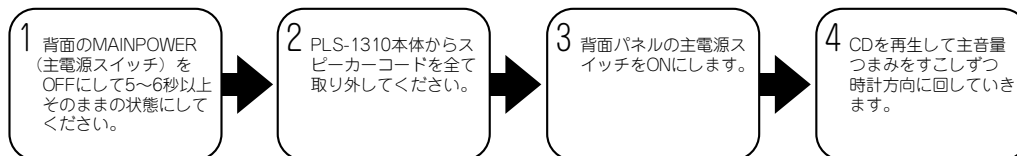
**電源コードの極性について**

本機の電源コードには極性表示がついているものを採用しています。接続するACコンセントの極性を合わせせることによって音質がよくなることがあります。家庭用ACコンセントに極性表示がある場合（一般的には、アース側の差し込み口が長くなっています）、電源コードの白線が印刷されている方をアース側に合わせて差し込んでください。また、背面のACコンセントもアース側の差し込み口が長くなっています。他の機器を接続するときは、極性を合わせることをおすすめします。

# 故障かな？と思ったら

| 症状 | 原因 | 処置 |
|---|---|---|
| 音が出ない | ・電源プラグがしっかり差し込まれていないか、外れている。<br>・MAIN POWERがONになっていない。<br>・全てのコードが、完全に接続されていない。<br>・入力切り換えで正しく選択されていない。<br>・音量が最小になっている。<br>・ミュートがかかったままになっている。 | ・もう一度しっかり差し込み直してください。<br>・MAIN POWERをONにしてください。<br>・もう一度コードの接続を確認してください。<br>・モード（CD、チューナー、TAPE、AUX）を確認してください。<br>・音量の調整をしてください。<br>・ミュートを解除してください。 |
| 電源が入らない | ・電源プラグがしっかり差し込まれていないか、外れている。<br>・MAIN POWERがONになっていない。 | ・もう一度しっかり差し込み直してください。<br>・MAIN POWERをONにしてください。 |
| ディスクが回らない | ・電源コードがしっかり差し込まれていないか、外れている。<br>・MAIN POWERがONになっていない。<br>・CDが外れている。裏表が逆にセットされている。<br>・CDが汚れている。<br>・CDに傷がついている。<br>・CDが反っている。 | ・もう一度しっかり差し込み直してください。<br>・MAIN POWERをONにしてください。<br>・レーベル面が上になるようにCDを正しい位置に入れ直してください。<br>・CDをクリーナー等できれいにしてください。<br>・傷のないCDをご使用ください。<br>・反っていないCDをご使用ください。 |
| CDは回るが音が出ない | ・スピーカーの接続が間違っている。<br>・アンプの音量が最小になっている。<br>・ミュートがかかったままになっている。 | ・本取扱説明書をもう1度見ながら、正しくつなぎ直してください。<br>・音量の調整をしてください。<br>・ミュートを解除してください。 |
| CDは回るが途中で回らなくなり止ってしまう | ・CDが汚れている。<br>・CDに傷がついている。<br>・CDが反っている。 | ・CDをクリーナー等できれいにしてください。<br>・傷のないCDをご使用ください。<br>・反っていないCDをご使用ください。 |
| 音が途切れる | ・CDが汚れている。<br>・CDに傷がついている。<br>・CDが反っている。 | ・CDをクリーナー等できれいにしてください。<br>・傷のないCDをご使用ください。<br>・反っていないCDをご使用ください。 |
| リモートコントロール操作ができない | ・リモコンの送信窓が、正しく本体の受信窓に向けられていない。<br>・リモコンの送信窓と本体の受信窓の間に障害物等がある。<br>・リモコンの電池が逆に入っている。<br>・リモコンの電池が消耗している。<br>・本体の受信窓に他の強い光が当たっている。<br>・インバーター採用の蛍光燈が製品のすぐ近くにある。 | ・受信窓に正しく向けてください。<br>・障害物等を取り除いてください。<br>・電池を正しく入れてください。<br>・電池を新しいものに交換してください。<br>・光が当たらないようにしてください。<br>・蛍光燈を遠ざけてください。 |
| ラジオの放送が聞こえない、または聞き苦しい | ・アンテナが接続されていない。<br>・アンテナの向きや位置が悪い。<br>・近くでノイズを発するものを使用している。 | ・アンテナを正しく接続してください。<br>・アンテナの向きを位置を調整し直してください。<br>・蛍光燈やドライヤーなどの電気機器を近くで使用しないでください。 |
| 放送がステレオにならない | ・方法内容がモノラルである。<br>・モノラルモードになっている。 | ・ステレオの放送を受信する。<br>・チューナーのモノラルモードを解除してください。 |

## Ｅｒｒ（エラー）表示がでたときは

もし本体表示部にＥｒｒ（エラー）の表示がでたときは、下記の要領でチェックしてください。

**このとき正常に動作する場合**

スピーカーケーブルか、スピーカーに問題があります。もう1度チェックして配線し直してください。

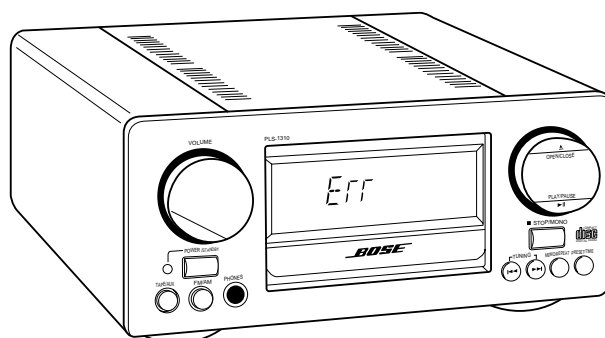
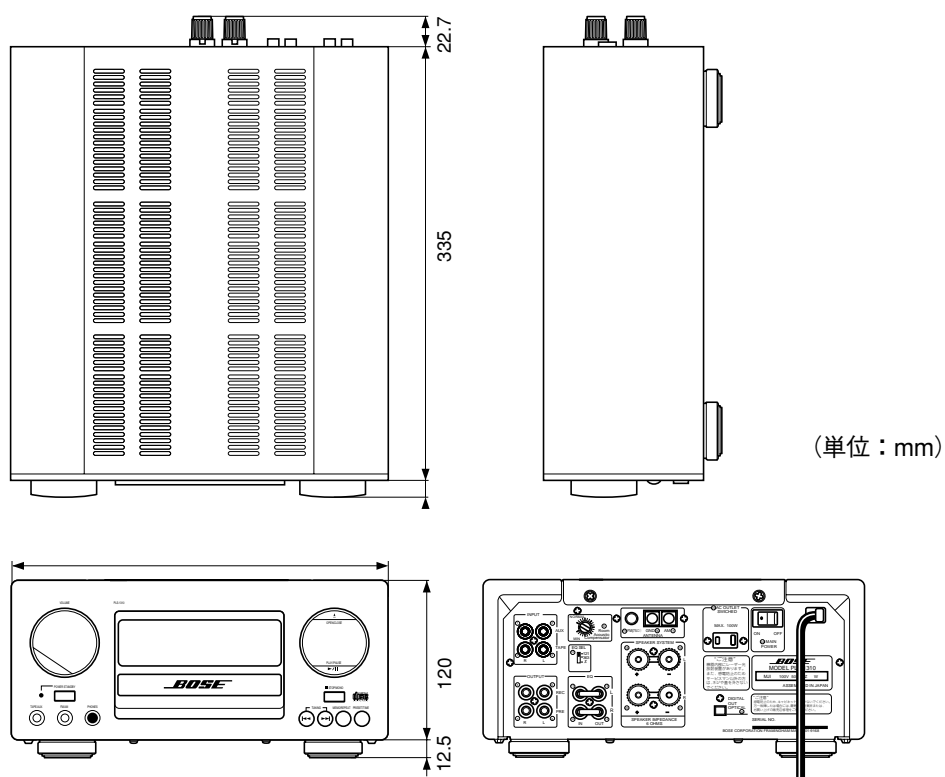
**再びＥｒｒ（エラー）の表示が出る場合**

ただちに背面パネルの主電源スイッチをOffにして、プラグをコンセントから抜き、ボーズ株式会社　修理担当部門までご連絡ください。

TEL 03-5489-1056

パネルのＥｒｒ（エラー）表示

# 寸 法 図

（単位：mm）

# 仕様

| | |
|---|---|
| **〈総合〉** | |
| サイズ | 286(W)×132.5(H)×369.7(D)mm |
| 重量 | 7.1kg |
| 定格消費電力 | 85W（電気用品取締法） |
| 光デジタル出力（DIGITAL OUT OPTICAL）端子装備 | |
| **〈CDプレーヤー部〉** | 20Hz〜20kHz ±2dB |
| 再生周波数帯域 | 95dB以上(1kHz A-WTD) |
| ダイナミックレンジ | 95dB以上 (A-WTD) |
| SN比 | 0.005%以下 (1kHz 0dB) |
| 全高調波歪率 | 90dB以下 (1kHz) |
| チャンネル・セパレーション | 測定限界値以下 |
| ワウ・フラッター | |
| **〈アンプ部〉** | 40W+40W (20Hz〜20kHz, 6Ω、THD 0.05%、両チャンネル駆動時) |
| 定格出力 | 10Hz〜40kHz （+0、−1dB 、AUX入力、6Ω、定格出力時、EQポジション：Χ） |
| 再生周波数帯域 | 90dB以上 |
| SN比 | 500mV/1kΩ |
| CD REC OUT出力ﾚﾍﾞﾙ/出力ｲﾝﾋﾟｰﾀﾞﾝｽ | 1.0V（AUX,TAPE定格入力時）/1kΩ |
| PRE OUT出力ﾚﾍﾞﾙ/出力ｲﾝﾋﾟｰﾀﾞﾝｽ | 3.2V（CD時）/1kΩ |
| | TAPE： 250mV/47kΩ |
| 入力感度/入力インピーダンス | AUX ： 250mV/47kΩ |
| | 40dB以上 ( AUX、1kHz) |
| チャンネル・セパレーション | |
| **〈チューナー部〉** | |
| (FM) | 76.0〜90.0MHz(100kHzステップ) |
| 周波数範囲（ＳＴＥＰ） | 13dBf |
| 実用感度 | 80dB(at 65dBf) |
| SN比 | 0.2%(at 65dBf、1kHz、mono) |
| 全高調波歪率 | 30Hz〜15kHz(REC OUT) |
| 周波数特性 | 45dB(at 1kHz) |
| セパレーション | |
| (AM) | 522〜1629kHz(9kHzステップ) |
| 周波数範囲（ＳＴＥＰ） | 55dBμV／m |
| 実用感度 | 50dB(999kHz、100dBμ／m INPUT) |
| SN比 | 1%以下 |
| 全高調波歪率 | 30dB（at 400Hz） |
| セパレーション | |

# 保証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

ボーズ株式会社

〒150　東京都渋谷区円山町28-3　渋谷ＹＴビル　ＴＥＬ03-5489-0955

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。